312.22
M554s

0005332000
0005332-000
312.22-M554s

清朝ニ於ケル漢民族統治問題

三井本社調査部

1944
ABC

清朝ニ於ケル漢民族統治問題

昭和十九年十月

株式会社三井本社
調査部

3/2.22
M554s

ハシガキ

支那ノ問題ガ今日程切実ニ感ジラレル時ハナイ。蓋シ支那ノ問題ハ今ヤ単ニ『隣邦』ノ問題トシテ止マリ得ズ、直接ニ我々自身『ノ問題トナッテヰルカラデアル。シカシ現在ノ如ク問題ガ餘リニ身近ニアルトイフコト、ソシテソノ解決ガ甚シク緊急ヲ要スルトイフコトハ、トキニ意外ナ過誤ヲ冒ス危険アルコトガ注意サレナケレバナラナイ。例ヘバ対策ノ樹立、施行等ニ当ッテ、動モスレバ支那ノ時間的、空間的大イサガ看過サレ、又ハソノ経済ニ於ケル或ヒハ國民性ニ於ケル特異性ガ見落サレ、為ニ折角ノ努力ガ却テ逆ノ結果ヲ招ク場合ノ如キガ決シテ尠クハナイカラデアル。乃チ我々ハ平素ニ於テ十分此等ノ点ニ就テノ研究ヲ怠ラズ、平常ノ施策ニ於テモ勿論ノコト、急遽樹立サレル対策モヨク的ヲ失セザランコトヲ期シナケレバナラナイ。カヽル意味ニ於テ清朝三百年ノ治政ノ如キモコレヲ探索スレバ決シテ得ルトコロ尠クナイト考ヘラレルノデアル。本稿ノ如キハ更ニソノ一端ヲ捉ヘヤウトシタモノデ、又簡潔ヲ期シタタメ意ヲ盡サヌ点モ多イ様デアルガ、以上ノ意味ニ於テ支部関係施策ノ一御参考資料タルヲ失ハナイデアロウ。

117666

本稿ノ筆者ハ竹中久七氏デアル。

株式会社　三井本社　調査部長

清朝ニ於ケル漢民族統治問題

目次

緒言
第一章　清朝國家ノ一般的性格
　第一節　軍事國家トシテノ清朝
　第二節　封建國家トシテノ清朝
　第三節　清朝軍事費ノ社会経済史的意義
第二章　清朝國家ノ採用セル経済政策
　第一節　清朝産業政策ノ社会的限界
　第二節　清朝租税政策ノ大要
　　A　軍事財源トシテノ鉱税
　　B　軍・事財源トシテノ塩税
　　C　軍事財源トシテノ関税
第三章　清朝ニ於ケル漢民族統治上ノ諸方針

第一節　経済面ニ於ケル漢民族操縦策
A　廣東十三行商ニ対スル方針
B　両淮塩商ニ対スル方針
C　買弁ニ対スル方針
第二節　政治面ニ於ケル漢民族操縦策
第三節　清朝宮廷ノ特殊性ガ賞ラセル清朝漢民族統治政策ノ特殊性
第四章　清朝ニ於ケル漢民族統治上ニ現ハレタル民生問題
第一節　茶業ニ於ケル民生問題
第二節　棉業ニ於ケル民生問題
第三節　絹業ニ於ケル民生問題
第四節　窯業ニ於ケル民生問題
第五節　清朝マヌファクトウル一般ノ特殊性ト民生問題トノ関係
第六節　清末新興産業ニ於ケル民生問題
第五章　清朝政治制度及ビ政策上ニ窺ハルル漢民族文化ノ利用
第一節　官制上ノ利用
第二節　村落統治上ノ利用
第三節　文化＝思想＝社会政策上ノ利用
結論
附録一、参考関係文献
附録二、清朝学術文献ニ現ハレタル清朝国家ノ対漢民族思想指導策
並ニ漢人ノ排清抗満文化運動
附録三、清朝法典小解
附録四　清朝典籍小解
附録五　清朝秘密結社ニ関スル文献

清朝ニ於ケル漢民族統治問題

緒言

清朝概觀　清朝トハ三千万ノ満洲民族ガ三億ノ漢民族ヲ征服シ支配シタ近代初期ノ支那國家ノ名称デアル。

軍事的ニ觀レバソコニハ十万ニ過ギザル兵力ヲ以テ内外蒙古ヲ平定シ支那本部ヲ併呑シ、西藏、新疆ヲ從ヘタトイフ偉大ナル業績ガアリ、又政治的ニ表現スレバ、ソレラ五百万余方里ノ領土ヲ三百年ノ久シキニ亘ツテ統治シ動搖シナカツタトイフ稀有ノ成果ガ算ヘラレルノデアル。

支那問題再認識ノ必要　今次ノ支那事変ニ際会シテ我々日本人ガ軍事的ニモ、政治的ニモ支那ニ対シテ尨大ナル努力ヲ傾注シ、尚且ソノ戰争目的ヲ所期ノ如ク擧ゲ得ザル裡ニ、大東亜戰争ノ新段階ニ突入シタル為、一時支那問題ハ未解決ノ儘南方経略ニ関心ヲ転ジタケレドモ、支那問題ノ解決ナクシテ大東亜戰争ノ成果ハ結実シナイ筈デアル。殊ニ最近ノ戰況ガ或ル意味デハ我ガ物動資源ヲ南方依存カラ大陸依存ヘト支那ノ再重点化サセザルヲ得ナイ事情ヲ招来シツツアル以上、支那問題ニ対シテモ再認識ノ必要ガ認メラレルニ至ツテヰルト言ヘマウ。

本稿ノ企図スル要点　茲ニ清朝ニ於ケル漢民族統治問題ヲ考察スル所以モ我ガ漢民族ニ対スル施策乃至指導上ノ参考ヲ微セントスルモノデナケレバナラヌ。併シ又唯單ニ清朝ニ於ケル漢民族統治ノ具体的事実ヲ機械的ニ日本民族ノ漢民族ニ対スル施策乃至指導上ニ適用セントスルコトノ愚ハアクマデ之ヲ避ケネバナラヌ。

從ツテ本稿ハ清朝政治経済ニ関スル編年史若シクハ時代史タルコトヲ企図シテ居ナイノデアリ、史的現象トシテノ清朝経済社会ヲ現在ノ日本ノ立場カラ解釈シ意味付ケテミタイ試ミニ外ナラナイノデアル。從ツテ本稿ハ單ナル過去ノ探索トシテノ考証ヲ離レテ、清朝経済社会ノ客觀的基礎分析ト共ニ主体的條件ノ解明ヲナシツツ表証ノ問題ノ史的把握ニ努メントシタモノデアル。

第一章　清朝國家ノ一般的性格

第一節　軍事國家トシテノ清朝

清朝國家成立当時ノ軍事的經緯　清朝國家ハソノ三百年ノ漢民族統治期間ヲ通ジテ典型的ナル軍事國家トシテ性格付ケラレルベキデアル。先ヅ最初ニ清ノ天明三年ニ明ノ万曆四六年（一六一八年）ニ大祖ガ倒明ノ軍ヲ起シ、入関ニ北京遷都ノ行ハレタ清ノ順治元年ニ明ノ崇禎一七年（一六四四年）ニ至ルマデ三〇年ノ間ハ苦戰ガ続ケラレタ。之ハ清軍ノ弓矢、白刃ト明軍ノボルトガル砲ノ戰鬪ニ於テ屢々清軍ガ敗北シ、遂ニ清軍モ求ルトガル砲ヲ用ヒルニ至ツテ漸ク倒明ヲ達成シタトイフ裏面ヲ知ル者ニトツテ当然ノ所要日子デアル。

清朝國家統治上ノ軍事的重要性　次ニ倒明後清朝ノ滅亡ニ至ル迄ノ二七〇年間ハ

1、絶ヘルコトナキ滅満興漢運動

2、窮民ノ生活難ニ基ク地方騒動

3、大清帝國ノ版図形成

4、西力東漸ニ依ル対外戰爭

ノ為ニ莫大ナル軍事費ヲ必要トシ、勢ヒ清朝ノ國家体制ハ常ニ軍事國家トシテ武裝セザルヲ得ナカツタノデアル。

（コノコトハ日華新條約ニ依リ日本軍ガ支那大陸カラ早クモ手ヲ引キ、文官ニ依ル支那漢民族ノ指導ニ委ツタコトノ是否ヲ決定スベク示唆スルモノガ多イ。）

清朝ノ軍事國家タラザルヲ得ザリシ所以　カクノ如ク清朝ガ軍事國家トシテ終始セザルヲ得ナカツタトイフコトハ滿洲民族固有ノ統治組織ガ未熟デアリ、ソレニ依ル漢民族統治ガ不可能デアツタ為、漢民族ノ統治組織及ビ政策ヲ全面的乃至部分的ニ受容シ、若干ノ改変ニ依ツテ新シイ統治組織ヲ創出セザルヲ得ズ、而モソノ新シイ統治組織ノ缺陥ヲ常ニ軍事力ヲ以テ補ヒ、又ソレヲ權威付ケル為ニモ軍事力ガ要求サレタトイフ事情ヲ意味スル。

コノ場合滿洲民族ノ統治組織ガ揚棄サレ、漢民族固有ノソレヲ踏襲シテ了フノデアルカラ漢民族ノ重大ナル政治參與ナクシテハ不可能デアリ、且他方ソコニ生ジ易キ政治的謀叛ヲ阻止スベク軍事國家トイフ特殊統治形態ガ発生シタ次第デアル。コノコトハ異民族ノ支那統治ニ際シテモ屢々見ラレタ共通現象デアリ、清朝統治組織ノ本質ハソレ自体ノ特殊性ヲ持ツガ現象的ニハ前王朝ナル明ノソシテ又歴代漢民族王朝ノソレヲ踏襲シタモノトイヘル。

従ツテ満洲民族ハ漢民族ニ同化サレタト見ル東洋史家ハ余リニ現象觀察ニ捉ハレ過ギタモノト考ヘラレル。而シテカヽル軍事國家トシテノ清朝ニ於テハ当然兵農合一ニ出戰入耕（後ニ兵農分離ス）ノ軍制ガ布カレ「計功給丁」ナル封建制度ガ採ラレタノデアル。

第二節　封建國家トシテノ清朝

満洲社会ト支那社会ノ差異　清朝発祥ノ地タル満洲ハ遊牧社会デアツタガ、一度入関ニ北京遷都ヲ見ルヤ支那統治上土地ト農業労働力（丁）ヲ重視スルニ至ツタ。ソノ結果遊牧社会カラ一躍封建制度ノ段階ニ飛躍シタヽデアルガソレヲ促進シタモノコソ戰爭デアツタコトハ言フマデモナイ。

封建制度ノ字義　コノ場合封建制度ナル字義ニ就イテ一應説明ヲ加ヘテ置ク必要ガアル。蓋シ所謂封建制度トハ政治制度ナノカ、経済制度ナノカ、社会制度ナノカ頗ル廣義漠然、意味ノ曖昧ヲ免レヌ許リデナク、人ニ依ツテハ西欧ノ Feudal System, Lehnswesen 日本ノ武家時代制度等ノ聯想モ招キ易ク、而モ支那史上デハ殷末カラ周代ニカケテノ時代制度ヲ「封建制」ト通称スル用語例ガアル為非常ニ誤解ヲ生ジ易イ次第デアル。元来封建ナル語句ハ支那ニ於テ出来タモノデアリ、「封」トハ土ヲ小高ク盛リ上ゲ、ソノ上ニ樹木ヲ植ヘタ形ガ原義トサレテヰル。支那デハ古代カラ天界ヲ支配スル神ー天・帝トモ謂フーニ対シテ地穀ヲ支配スル神ガアリ、之ヲ地ー后土トモ謂フートモ称シタガ、地ハ地穀全体ヲ支配スル神デアリ、ソノ外ニ地穀ノ各部分々々ヲ司ル神ガアツタ。之ガ所謂「方」デアツテ、後ニ「社」トモ謂ハレ、ソノ土地ノ一定ノ神聖ナリトサレル場所ヲ選ンデ土ヲ盛リ、特殊ノ神聖ナリトサレル樹木ー殷デハ松、周デハ柏ーヲ植ヘル一種ノ宗教的儀式ガ「封」デアツタ。

支那、西欧、日本ノ封建制度ノ意味内容ノ差異　祭政一致ノ古代支那ニ於テハコノ「封」ズルコトガ主權者カラ與ヘラレタ土地ヲ所有スルコトノ表示・確認デアリ、カクテソノ土地ニ國ヲ建テルコトガ「建」ノ意味デアツタ。（從ツテ「封」ハ「邦」デモアツタ。）之ニ対シ西欧流ノ封建制度ハ一般ニ、君臣主從ノ身分的関係ガ封土ナル物的関係ヲ紐帯トシテ結ベレタ中世特有ノ政治形態デアルト理解サレ、日本流ノ封建制度トハ郡縣ニ対スルモノデアツテ、上ニ形式上ノ主權者（將軍）ガアリ、全國各地ニ諸侯ガアツテ、之ニ臣從スルモ、諸侯ハ各々一定ノ土地ヲ占有シ、ソノ領域内ノ人民ハ臣下トシテ諸侯ニ服從シテ

生業ヲ營ミ、人的主從関係ト土地的封土関係トハソノ不可分的要素トサレルトノ考ヘガ有カデアル。

封建制度ノ一般的觀念的定義付ケ　カ、ル特殊的政治制度ニ伴フ經濟制度コソ封建的經濟制度、ソノ社会制度コソ封建的社会制度ト称サレルノデアルカラ結局封建制度トイフ字義ハ政治、經濟、社会ノ各側面ニ共通、不可分ノ特殊制度ダトイヘル。又之ニ発生過程カラ史的考察ヲ下セバ、地方割據的民族部落若クハ之ニ類スル莊園的形態ガ漸次中央集權的社会タラントスル過渡期ニ起ツタ政治形態デアッテ、形式上ハ上ニ主權者ガアリ、実質的ニハ各地方ニ領主ガアル所ノ羈絆ナル統制下ノ地方割據的狀態ガソノ様相デアル。

特殊的封建制度トシテノ清朝國家社会　併シ乍ラカ、ル嚴密ナル理念ノ封建制度ガ元ヨリ清朝國家社会ニ実現シタトイヘズ、寧ロ変形ノ、ソレ故ニ特殊的ナルソレガ発生シタト考ヘラレルノデアル。清朝國家社会ガ封建制度ヲ具有シテ居ナイト見ル論者モ相当居ルガ、ソノ論據ハ封建制度ナル概念ヲ觀念的ニ樹立シ、ソレニ適合シテ居ナイト言フ点ニ在ル様デアル。而シテ又反対ニ封建制度ヲ典型的ニ具有シテ居タト觀ル人々ハ清朝國家社会ガ未ダ資本主義的社会ニ到達シテ居ナイカラソノ様ニ考ヘラレルトスル所ノ國家社会発展ノ過

程ニ公式的段階説ヲ持スル者ガ多イ。其他ニハ「アジア」的生産様式社会説モアリ、支那社会ハ各朝各時代ヲ通ジテ常ニ半封建的デアルトスル見解ガ行ハレタコトモアルガ、吾人ハソノ何レモ採ラザル所デアル。蓋シソコニハ清朝國家ガ「計功給丁」ナル上カラノ封建制度ヲ樹立シタ反面ニ於テ、漢人ノ「帶地投充」ナル下カラノ封建制度ノ支持ガアッタト言フ注目スベキ事実ガ在ルカラデアル。

第三節　清朝軍事費ノ社会經濟史的意義

軍屯政策ヨリハ旗兵制ヘノ推移ニ基ク軍事費ノ激增　清初、太祖時代ニ採ラレタ軍屯政策（兵農未分政策）ニ於ケル軍事費ニ比較シテ後年ノ八旗兵制（兵農分離政策）ニ於ケル軍事費ガ悠大化シタコトハ非常ナモノデアリ、ソノ概要ハ左ノ如クデアル。

イ、康熙期――歳出総額ノ九〇％弱

ロ、乾隆期――歳出総額ノ五〇％台（但、百分率ハ低下セルモ之ハ土木、建築、文化、奢侈等ノ出費ノ激增ニ起因シ、軍事費ノ全体額トシテハ依然增加ス。）

3、清末――歳出総額ノ三〇乃至五〇%台（但、百分率ハ低下セルモ、之ハ行政費ノ増加ニ起因シ全体額トシテハ依然増加ス。）

之ヲ数字的実例ノ一ニ依ツテ示セバ、乾隆期ノ主要臨時軍事費ノミニテ一五、〇五二万両ニ上ツテ居ル。

清朝軍事費ノ巨大化ガ齎ラセル社会的、経済的影響ガ、ル巨大ナル軍事費ハ当然、清朝経済社会ニ重大ナル影響ヲ與ヘテ居ル。即チソノ要点ヲ列挙スレバ次ノ如クデアル。

(1) 地代ノ金納化ヲ生ゼシメ、ソノ官房経済ハ銀ヲ中心トセル貨幣経済機構ニ巻キ込マレタ。

(2) (1)ノ結果トシテ鉱業マタ又ファクトウルガ勃興シタ。

(3) 領土ノ拡大ニ伴ヒ、ソレガ維持ノ為ノ不生産的消費ノ反面ニ於テ広大ナル國内商品市場ヲ獲得シタ。又原料資源確保ニ成功シタ。

(4) (3)ノ結果トシテ全國的規模ノ國内流通経済ガ発達シ在来ノ省別セクト主義ヲ打破シタ。

(5) 官營軍需工業（特ニ吉林造船廠）ガ創設サレタ。

(6) 造船、土木、建築等ノ軍需木材ノ巨大化ニ伴ヒ、燃料ノ極度ノ欠乏ヲ招キ、ソノ為ニ石炭採掘マタ又ファクトウルガ発展シタ。又右ニ從ツテ清朝國家ニ頻発セル洪水ハ飢饉ノ自然的原因ヲ形成シタ。

第二章 清朝國家ノ採用セル経済政策

清朝経済政策ノ概観

軍事國家トシテノ清朝國家ハソノ軍事力補強ノ為、経済政策ノ重点ヲ左ノ部門ニ置イタ。

ノ産業政策

之ノ租税政策

然ルニ前者ニハ当然明確ナ社会的限度ガアルカラ、ソノ重点指向ハ漸次後者ニ傾キ、軍事力ノ補強ハ軍事費（ハ敢政收入）ノ補給ハ主トシテ租税ニ依存シタ。從ツテ問題ノ理解ハ清朝産業政策ノ社会的限度ノ処在ノ把握ト徴税対象（財源）ノ選定ノ根據ノ探求ニ懸ツテ居ル。

第一節　清朝産業政策ノ社會的限界

清朝鉱業政策ノ國家經濟的意義並ニソノ推移　清朝産業政策ノ動向ハ軍事國家ノ産業政策一般ノ例ノ如ク、鉱業政策ノソレガソノ指標トナル。

清朝ニ於テハ初期ニ軍事行動ノ活潑ニモ不拘鉱業政策ハ積極化シナカツタ。ソレハ明朝ノ銀山開発政策ガ支那ノ歴史的通有性タル、王朝交送毎ニ起ルヴァンダル式文化破壊ニ依ツテ中絶セラレ、建國ノ忽々裡ニソノ復活ガ乾隆期マデ抛棄セラレテ居タ為デアル。

清朝鉱業ノ概要　而モ清朝ノ主要鉱産地タル四川、雲南、貴州、甘肅、廣西、湖南ノ内四川以外ノ五省ハ清朝ニ到ツテ初メテ確固タル新版図ニ属シタモノデアリ、山東省ヤ明朝ノ主要銀産地タル浙江省ノ如キハ鉱区トシテ第二義的存在ニ過ギナイカラデアル。

次ニ清初ヨリ中葉ニカケテ開掘セラレタ鉱山ノ鉱物ノ主タルモノハ左ノ如クデアル。

銀、白銅、鉄、鉛、鶏冠石、金、硫黄

尚清朝炭坑業ハ他ノ鉱業ト同時ニ開鉱セラレテ居ルガ、ソノ開掘ガ当初ニハ人民ノ土法ニ依ル小規模ノ家計補充的經營トシテ行ハレ、ソノ大規模化ニ伴ヒ、政府ガ公許シ、鉱税徴收ニ移ツタ点ガソノ特徴トサレテ居ル。

上諭、上奏文献ニ窺ハレル清朝鉱業政策ノ特異性　之等ノ清朝ノ鉱業政策ニ関シテハ幾多ノ上諭並ニ上奏ノ文献ガアリ、ソノ各文献ニ表ハレタ清朝國家ノ根本方針ノ大意ヲ要約摘記スレバ次ノ如クデアル。

(イ)　農業コソ國内産業ノ大本デアリ、鉱山業ノ如キハ營利、投機ノ事業デアル。農業労働力ガ鉱山業ニ吸收サレルコトハ國家ヲ危クスル。從ツテ開鉱ハ一般ニ許可シ得ヌ。

(ロ)　鉱区ニハ各省ノ失業者ガ蝟集シ、山師ガ跋扈スル。ソコニ易性革命ノ導因タル地方騒擾ガ起リ易イカラ開鉱セヌ方ガヨイ。

(ハ)　鉱脈ガ貧瘠化シ始メルト生産費ガ昂騰シ、利潤ガ低下シ、鉱山ノ倒閉、鉱夫ノ失業ガ起ル。而モ鉱夫ハ集マル二易ク、散ジル二難イ。之ハ地方騒擾ノ動機トナルカラ初メカラ新鉱ハ許可セヌ。

(二)　本省ノ窮民ガ零細資金ヲ以テ家計補充的ニ小規模經營ヲシテ居ル所ヘ他省人ノ進出ヲ許ス時ハ販路ノ縮少喪失トナル。ヨシマタ本省人デモ大規模經營ヲ許ス時ハ市場壟占ヲ来ス。

之ガ小規模経営トソノ被傭鉱夫トノ失業ヲ誘発スルカラ新鉱ノ開掘ハ厳禁スベキデアル。

(ホ) 開鉱禁止ハ右ノ如ク一大原則デアルガ故ニ新規開掘ハ許可スベキデナク、僅ニ農田、墓地ヲ破壊スルコトナク且地方民生ニ利益アル場合ノミ許可スルモ差支ヘナイ。又一旦開鉱セラレ、本省窮民ガ資金ヲ苦面シ、家計補充的経営ヲナセル場合若クハ官営或ハ民営ノ大企業ニシテ本省人民ヲ雇傭セル場合ノ二ツノ場合ハ、失業防止ノ点カラ一概ニ封閉セラレルベキデナイ。但シ鉱脈ガ貧瘦化スレバ経営不振トナリ、又徴税成積ヲ挙ゲニトシテ官吏ノ勤奮ヲ増ス惧レガアルカラ断ジテ封閉スベキデアル。

上述ノ如キ各文献ノ区々タル論旨ヲ帰一スレバ農業生産力ノ減退ニ対スル危惧(清朝農業社会ノ当然ノ論理)ト失業防止ニ対スル危惧(易性受命思想カラノ当然ノ帰結)ノニ点トナル。

清朝鉱業政策ノ消極性ガ及ボセル諸影響 ココニ清朝鉱業政策ノ消極性ガアリ、ソレコソ清朝産業政策一般ノ退嬰性ノ根本原因デアリ、從ツテ又清朝経済社会発展ノ滞帯性ヲ結果

シタノデアル。

而シテカヽル清朝経済社会ノ滞帯性ハ鴉片戦争以後外國ノ近代資本主義的経済勢力ノ侵入ノ為ニソノ変化ヲ生ジル迄維持セラレタ。換言スレバ外國トノ戦争準備ノ為鉱山ヨリ金属工業ノ建設ノ必要ニ迫ラレル迄清朝経済社会ノ滞帯性ハ除却サレナカツタ。

第二節 清朝租税政策ノ大要

A 軍事財源トシテノ鉱税

清朝鉱税ノ概要 上述ノ如ク清朝政府ガ開鉱厳禁政策ヲ以テ臨ニダ以上、清朝ノ鉱税ガ微々タルモノデアツタコトハ言フマデモナイ。清末ノ史家瀧希逸ガ「大清会典」ヨリ算出セル数字ニ依レバ

雲南省官定銀税	年額	六七、三〇〇両
〃 金税	〃	六〇金両
〃 銅税	〃	一〇、八〇〇両
〃 錫税	〃	三、〇〇〇両

デアツテ、他ノ廣東、廣西、四川、貴州、湖南、山西ノ諸省ニハ官定額サヘナク、所謂「盧撈盧解」ニ過ギナイ。而モカヽル小額ノ鉱税ガ低税率ニ因ルモノト考ヘラレナイ点ニ注意ヲ要スル。蓋シ清朝鉱税率ハ二〇%ヲ以テ原則トシ、明代ノソレノ三〇%ニ比シ下廻ツテ居タニセヨ、ソコニハ四〇%乃至五〇%ト言フ例外税率ガ屢々課セラレテ居タノデアル。之ハ税率ガ軍事財源ニ充当シタ為ニ外ナラナイカラデアル。

清朝鉱税ノ半貨幣納制ニ窺ハレル貨幣経済ノ胎生　次ニ清朝ノ鉱税徴収ニハ物納制ト貨幣納制ガアリ、之ハ田賦等ト同様ニ官吏ノ給與制度ガ俸銀制ト禄米制トヲ併用サレタ事情ニ対應スルモノデアル。即チ之ハ清朝経済社会ガモハヤ現物経済ノミノ基盤上ニ成立スルモノデナク、貨幣経済ヲ胎生シツヽアツタコトヲ意味スル。（因ミニ支那ニ於テ銀ガ一般的通用力ヲ高メテ遍ク流通シ始メタノハ所謂西力東漸ノ初期タルスペインノフイリツピン占領（一五七一年）以降ニ属スル。当時スペインハポルトガルニ次イデ東洋経略ニ着手シ、明朝ノ福建、広東等ノ沿海諸省人民ト貿易ヲ開キ絹、茶、磁器ヲ対象トスルソノ片貿易ハ決済上多量ノスペインドルメキシコ弗ヲコノ國ニ流入セシメタ。コノコトハポルトガルノ場合モ類似シテ居リ、カクテ、スペインドルメキシコ弗ハ江南地方ニマデ一般通用力ヲ高メ、清朝貨幣経済ノ進展ヲ著シク刺激シタンデアル。殊ニ明朝ハ外国貿易ニ就イテ消極的デアツタガ、清朝ノソレハ積極的デアツタカラ、スペインノ没落後モ、英米、トノ貿易ガ盛大ニ行ハレ、支那ノ國産銀ヨリモ外國銀ノ流通ノ方ガ多額ニ上ツテ居ル。）

清朝鉱税ガ鉄ヲ重点的対象トセル所以　第三ニ鉱税ノ軍事財源充当ニ関スル上諭　上奏等ノ文献ニ依レバ、ソノ重点的対象ガ鉄デアルガ、之ハ軍事國家ノ鉱税政策トシテ一見奇異ノ感ヲ抱カシメラレル。勿論金、銀ハ原則上開係禁止状態ニ在ルカラ、ソノ対象タリ得ナイトシテモ、寧ロ銅、鉛コソ当然ソノ対象ノ重点タルベキ筈ノモノデアル。ソレガ然ラザル所以ハ何ニ在ルカガ疑問トシテ考ヘラレル。併シコノ場合一應清朝貨幣制度ニ関スル常識ヲ知ツテサヘ居レバ容易ニ疑問ガ氷解スルデアラウカラ之ヲ概述スレバ左ノ如クデアル。銀ガ秤量貨幣デアリ、個別的商品デアル以上、ソレハグスタフ・カッセルノ所謂「計量單位」（Rechnungseinheit）タルノ役割ヲ果スニ留マリ、制銭コソ銅、鉛ヲ素材トスル清朝唯一ノ國定銭貨ナノデアル。而シテ貨幣経済ノ発達ハ銅銭缺乏ヲ招来シ清初ニ於テ既ニ民間ノ銅器製作又銅、錫私鑄ハ禁ゼラレタ程デアル。（銅銭ノ缺乏ハ清朝ノミデナク、吾朝ノ排佛政策ノ如キモ佛寺ノ銅像、銅鐘ヲ獲得セントスル為ノ経済的要求ガ含マレテ居

タトサヘ言ハレテ居ル。）又鴉片戰爭ノ如キモ、印度鴉片輸入數增↓貿易入超↓銀流出↓銀價騰貴↓制錢比價下落↓制錢物價（庶民物價）昂騰↓用戰ト言フ經過ヲ辿ツテ居ルガ、之モ清末ノ財政支出膨脹ト交換經濟發達ノ結果、制錢鑄造額ガソレニ追隨シ得ザル為外國銀貨ヲ利用シテ居タ当時ノ實情ガ生ンダ悲劇ノ一デアリ、鴉片ノ輸入ハ國民保健上不可ナルモ、ソノ密輸入ニ依ツテ銀ノ流出ヲ防止シ且関税收入ヲ得ンガ為ニハ之ヲ禁止シ難イト言フ矣ノヂレンマニ当時ノ清朝政府ガ苦ンダト言フコトハコノ間ノ消息ヲ雄辯ニ物語ツテ居ル。

B 軍事財源トシテノ塩税

清朝塩税ノ概要 支那財政史上塩税ハ重要財源ノ一デアルガ、ソレモ軍事費ノ給源トシテ清朝ニ於テハ採リ上ゲラレテ居ル。從ツテ塩法改革トカ、塩制改革トカ称セラレル清朝國家ノ施政ノ目的モ塩業ソノモノヲ発展セシメル為デハナクテ、如何ニシテ塩税ヲ增收シ得ルカト言フ矣ニ在ツタ。從ツテ例ヘバ雲南省ノ塩業ノ如キハソノ經濟立地條件ノ不利ト言フ発展限界ヲ無視シテ增産ヲ强制シタル為却ツテ生産ノ低減ナリ已程官借ガ增大シタト言ハレテ居ル。

塩ハ万民ノ必需品デアルニモ不拘、清朝ニ於テハ塩課正税ノ外ニ塩釐、加派、塩捐、羨餘盈餘、額外盈餘等ノ新項目ガ倍加セラレ、ソレガ正課ノ数倍ニスラ達スルニ至ツテ居ル。而シテソレラ塩税中ノ二〇%乃至四〇%ガ純軍事費ニ充当サレテ居タノデアル。

C 軍事財源トシテノ関税

清朝関税ノ特異性 清朝ノ関税モ軍事費ニ充当セシメラレテ居タコトニ関シテハ文献（上諭）ガ明白ニ之ヲ伝ヘテ居ル。ソノ顕著ナルモノノ一ハ福建省ノ出洋貿易税デアル。因ミニ福建省ノ水田耕作ガソノ社会的限界ニ達スルヤ、ソノ限外耕作者ノ救済策トシテ海禁解除ニ出洋貿易許可ガ行ハレ、（ソノ裏面ニハ広東十三行商人中官ノ苛税ヲ避ケテ厦門ニ赴キ公行（ギルト）ヲ創設シタル者ニ依ル海禁解除運動ガアツタ。）ソコニ発生シタモノガ南洋華僑デアル。而モ清朝ニ於テハ軍事費本省自弁主義ガ採ラレタノデ、福建省トシテハ本省ノ軍事費ノ財源ニ之ガ課税ヲ充当シタノデアル。尚又カクノ如ク関税ヲ軍事費ニ充当スルコトハ外國貿易國家管理ヲ必然的ニ結果スルガ故ニ、清朝國家ハ軍事費ノ補給、捻出ノ為ニ外國貿易ヲ禁止ハシナカツタノデアル。即チ清朝ハ海禁ニ海外渡航制限ハ行ツタガ、鎖國ニ外國貿易禁止ハ行ハナカツタノデアル。蓋シ清初ニ於テハ邊境領主ガ外國貿易ニ依リ軍事

||財政カヲ強化スルコトヲ恨レ、海禁ヲナシタガ、三藩乱後撤廃ガ完了シ、政府ノ中文輩
確化ガ劃期的ニ具体化スルヤ、禁止ノ必要ハ解消シ、且政府自ラ貿易ノ利益ニ惹カレテ之
ヲ管理下ニ納メルベク、方針ニ変化ヲ来タシタ次第デアル。

清朝ノ外國貿易管理事情 カ、ル場合清朝ノ外國貿易管理ハ(1)開港場ノ指定(2)代行機関||
特許商ノ任命ニ依ッテ実現セラレ、コノ転換期ノ当初ノ貿易相手國ハオランダ、ポルトガ
ル、スペイン、フランス、イタリー等デアッタ。(イギリスハ雍正七年マデソノ舞台ノ中
心的存在デハナカッタ。)又コノ頃ノ清朝政府ノソレニ対スル方針ハ個々ノ税率ヲ低下シ
テモ外船ノ渡航数ヲ多カラシメ、結局、全体トシテノ関税収入ヲ高メル政策ヲ選ンダ。(
併シ当時ノヨーロッパ政情ハ対支貿易不振ヲ結果セシメタ。)

尚ソノ関税ハ船鈔ト貨税ニ分シ、開港場ハ上海、天津、寧波、福州、廣州デアリ(後ニ廣
州一港ニ限定ス)代行機関トシテハ広東十三行商ガ最モ有名デアル。ソシテカ、ル清朝ノ
外國貿易管理ハ鴉片戦争マデ継続シ、ソノ後ニ至ッテ近代的自由貿易ノ時期ニ移ッタノデ
アル。

ソモソモ外國貿易トハイギリス古典経済学ニ於テハ國際分業||比較生産費説ニ依リ、文化
交流論ノ経済学的適用ガ規定セラレル。換言スレバ貿易ハ社会発展ノ為ニ極メテ重要ナル
契機タルモノデアリ、ソレハ單ナル経済社会ノ現象タルニ留マラズ、文化一般ノ化合||
継承ノ経済的表現ソレ自体ニ他ナラヌモノトサレル。然ルニ清朝ノ國家理念ヨリソノ外國
貿易思想ヲ抽出スレバ、地大物博ヲ誇称スル清朝政府ノ主觀的意図若クハ表面上ノ口実ハ
洋夷ニ対スル慈恵政策トシテ表現セラレテ居ル。併シ乍ラソノ外國貿易ヨリ生ズル利益
(主トシテ関税収入)ガ軍事費ノ給源ノ尤タルモノデアルコトヲ否定出来ナイ事実ハソノ
積極性ニ現ハレル。要スルニ清朝國家ノ海外自尊的聲明ハ孤立的小宇宙主義ノ觀念的表現
ニ外ナラズ、カ、ル中華思想モ、清朝経済的現象ヲ具体的ニ考察スレバ一種ノ口頭禅ニ過
ギナイコトハ明白デアリ、鴉片戦争ヲ契機トシテソレガ曝露セラレタ次第デアル。

第三章 清朝ニ於ケル漢民族統治上ノ諸方針

清朝國家ノ漢民族統治上ノ諸方針ノ要点 以上ノ如キ政治的、経済的、社会的意味ニ於ケ
ル軍事型家トシテノ清朝國家ガ漢民族統治上執レル方針ハ実外所謂武断政治デハナク、相
当ニ複雑多岐、微妙巧緻ナルモノデアッタ。

即チ官僚主義乃至公式主義ノ外貌ノ裡ニ秘密性ト彈力性ヲ持チ、制度、政策ハ多ク明朝ノソレヲ踏襲シタリ非常ナ成果ヲ擧ゲ得タノハ、一面ニ於テ対外事情ガ僥幸ニ展開セル結果デアルトシテモ、他ノ反面ニ於テソノ運用上ノ人格的調和性ニ基クモノト言ヘル。ソコニ德治主義政治ヲ標榜セル所以モアツタノデアル。以下各方面ニ亘ツテソノ具体的事実ヲ概述スル。

第一節　経済面ニ於ケル漢民族操縦策

清朝ニ於ケル漢民族経済人ノ性格　清朝ニ於ケル経済勢力ハ主トシテ漢民族ノ掌中ニ在リ而モソノニ大叢源ヲナスモノコソ廣東十三行商ト兩淮塩商デアツタ。（後世有名トナツタ買辦ノ如キハ鴉片戦爭以前ニハ未ダ確固タル存在デハナカツタ。）彼等ハ巨大ナル資本ノ蓄積ヲ持チ（一例ヘバ十三行商ノ一人伍沛官ハソノ盛時六百万磅ノ資産ヲ持チ、當時世界最大ノ富豪デアツタ。）ソノ驕奢ナル生活ハ彼等ガ未ダ、マツクス・ウエバーノ所謂近代的、プロテスタント的資本家（合法的利潤追求ヲ天職トシテ節制乃至禁欲ヲ通ジテ精神的矜持ヲ保ツ資本家）タリ得ナイ所ノ前資本主義的商人タルコトヲ物語ツテ居ル。カヽル存在ガ二対シテ清朝政府ハ捐輸（コントリビユーション）ノ強制ニ依ツテ軍事費ヲ財政收入ヲ計ツタ。

支那ノ行商組織ノ特性　尚廣東十三行商並ニ兩淮塩商ニ関シテ記述スルニ先立ツテ、予メ支那ノ行商組織ニ就イテ一應ソノ特性ヲ簡單ニ説明シテ置ク方ガ漢人中心ノ清朝経済機構ノ実体把握ニ便利ダト思フ。

支那ノ行商組織トハ、定期「市」ヨリ発達セル支那都市ニ於ケル商工業ノ進展ニ伴ヒ、同業商店ノ斬ヲ連ネタルモノ、即チ「行」ガ組合トシテ合同シ、内ニ向ツテハ労働ノ規制ヲ外ニ向ツテハ獨占ヲ要求スルニ至レル場合ノ組織ヲ指スノデアル。之ハ西洋ニ於ケルギルドニ相當スルモノナルガ故ニ、学界デハ「支那ギルド」ノ通称ヲ以テ研究サレテ居ル。（学者ニ依ルト行商組織並ニギルド制度ヲ峻別シ、唯行商ノ裡ニギルド性ヲ設定スル人モアル。）ソノ発生ハマクゴーワンニ依レバ舜代ニ於ケル寧波ノ山東ギルドニ始マルトサレギヤンブルニ依レバ北京最古ノ盲人ギルドハ漢代ニ遡ルト言フ。又根岸博士ノ説デハギルド発生ノ時機ヲ、血族団体ガ正ニ崩壞シ、成員ノ生活ノ安定ト保障トヲ失ヒ、而モ地域団体ガ血族団体ニ代ツテ之ヲ充分ニ保護スルニ至ラナイト言フ過渡期ノ段階ニ求メラレテ居ル。從ツテ春秋以降周朝ノ衰微ト共ニ周代ノ宗法（支那特有ノ氏族制度）ガ瓦解シ、而モ國家統制ノ未確立期タル漢代ニ「社」乃至「会」ナル一般的ギルドガ平和組合、保護組合

等ノ形式ニ於テ農村内ニ発生シ、次イデ漢代以後商工業ノ発展ト共ニソノ自己防衛ノ必要上都市ニコノ組織ガ採用サレ、コヽニ唐、宋ノ商工ギルドノ発生ヲ見ルニ至ツタト述ベラレテ居ル。コノ説ノ是非ハ別トシテ（マックス・ウエバー・デユルケムハ別説ヲ持シテ居ル。）カヽル支那ノ行商組織ガ発生シ繁衆シタ理由ノ一トシテ、ソレガ異民族ノ統治ニ対スル被統治者タル漢民族ノ自衛手段デアツタト言フ政治的條件ノ潜在スルノヲ看過シテハナラヌ。又清朝ノ行商組織ノ特性トシテ有名ナ点ハ、同郷同業ノ商人ガ会館、公所ノ名ニ依ツテ形成サレタコトデアル。即チソレ以前ノ行商組織ハ土着ノ商工ギルドデアルニ反シ清朝ノソレハ出先ノ土地（他郷）ニ於テ同郷、同業ノ商工業者ニ依ツテ組織セラレタモノデアル。之ハ清朝国家ノ成立後国内市場ガ拡大シタ為ニ見ラレル特殊現象デアリ、清朝国家ノ統一事業ガ強化サレル程ソノ行商組織ガ却ツテ発展シタト言フコトモ、清朝ノ行商組織ノ実体ガ根岸博士ノ規定セル行商組織概念カラ脱ニ変化、逸脱シタモノデアリ、清朝国家ニ対スル漢民族ノ自衛手段化シテ居ルコトヲ物語ツテ居ル。更ニ亦支那行商組織ノ研究上参考スベキ支那文献ハ稀少デアリ且ソノ存在スルモノモ殆ンド全テガ官廳外ノ文献デアルコトモコノ間ノ消息ヲ暗示シテ居ル。支那行商組織ニ関スル官廳文献ノ缺如セルコトハ、

ソノ政治的法律的圧力ニ起因スル旨ヲウイットフォーゲルハ指摘シテ居ルガ、ソレト同時ニギヤンブルガ指摘セル如クソノ組合規約ガ口頭傳承的ナモノデアルカ、當時頻繁ダツタ戰禍ガ文献ヲ喪失セシメタ点モ考慮ニ入レネバナラヌ。ソシテウイットフォーゲルノ支那行商組織ノ政治的無力説ニ類スルモノニウエバー、マジヤール、メーボン等ノ諸説ガアリ之等ハ清朝国家ノ専制絶対主義的官僚政治ガ商工業ノ大部ヲ占メル漢民族ニ対シ強圧的デアルト同時ニ、ソレニ対スル自衛手段トシテ漢民族ニ依ツテ支那行商組織ガ採リ上ゲラレタモノデアルト言フ解釋ト矛盾スルモノデハナイ。

支那行商組織ト西洋ギルド制度トノ差異点

次ニ支那行商組織ト西洋ギルド制度トハ之ヲ同一視出来ナイコトハ既ニ識者間ノ常識デアルガ、ソノ差異ニ関シテ注意スベキ点ハ西洋ギルド制度ノ政治的強力性ハ多ク一民族内ノ生産力ノ強大化ニ起因スル社会発展段階関係ノ歴史的必然ニ由来スルニ反シ、支那行商組織ノ政治的無力性ハ異民族ノ漢民族ニ対スル征服、統治関係ノ制度的因果ニ即スルト言フコトデアル。殊ニ支那行商組織ハ各支那ギルド間ノ連繋統一ノ皆無トイフ点デ、即チ封鎖的自治団体デアルト言フ点デアクマデ自己防衛的デアリ、西洋ギルドノ如ク国家權力ニ対シテ攻撃的デナイト言フコトニ依ツテ漢民族

ニ対スル異民族ノ統治政策ガ如何ニ巧妙複雑デアツタカヲ窺知シ得ル。

散商ノ存在　又清朝経済ニ於テ行商組織ガ有力ナルモノデアツタトシテモ、ソレガ清朝流通経済ノ全テヲ意味スルモノデナク、殊ニ廣東公行ニ所謂十三行商ノ獨占的統制カヲシテモ手ノ下シ様ノナカツタモノニ散商（アウト・サイダー）ガアル。散商ハ始メ主トシテ扇、漆器、刺繍、絵画ノ如キ手工業製品ヤ特別ノ鑑定知識ヲ要スル陶磁器ヲ統制外商品トシテ公行ト獨立シテ販売シタガ、後ヲノ闘争ヲ経テ後ニハ絹、床敷、南京木綿、綿布、衣類、傘、麦稈帽、靴等ノ商品ヲモ取扱ヒ得ルニ至ツタ。カヽル散商ハ、行商ガ純然タル中間商人デアルニ反シ、生産者ヲ兼ネルモノデアリ、之ニ対シテハ清朝政府ノ制約ハ行商ニ比シ微々タルモノデアツタ。（行商ヲ通ジテ間接的ニ監督セシメル程度デアツタ。）

A　廣東十三行商ニ対スル方針

廣東十三行商ノ概要　廣東十三行商ノ起源ハ機能的ニハ交市監（隋朝）市舶使（唐朝）市舶司（宋、元）ニ求メラレルシ、制度的ニハ明ノ官設牙行ニ在ル。而シテソノ通称ハ洋商ト呼バレ、本質ハ貿易特許商（licenced privileged merchant）デアリ、多額ノ冥加金ヲ納入シテ貿易管理代行權ヲ獲得シタ官商（mandarins merchant）デアル。換言スレバ献金ニ買官ニ依リ行商トナツタモノデアル。從ツテソノ性格ハ商人ニ官吏身分ヲ持ツ所ノ貿易公行（ギルド）デアル。

廣東十三行商ノ沿革　ソノ沿革ヲ尋ネレバ康熙三八年（一六九〇年）英船マクレスフィールド号ガ廣州ニ来航スルヤ、当時王商（The King's merchant）総督商人（The Tutar-General's merchant）（The Viceroy's merchant）将軍商人（The Tuyen's merchant）ノ四背後勢力ヲ持ツ商人トノミ取引シタノデアルガ、康熙四一年皇商（The Emperor's merchant）（塩商ヨリ転ジテ廣州、厦門ノ獨占貿易ニ従事シタ存在）ガ新ニ之ニ参與シ、両者間ニ盛烈ナ競争ガ行ハレ、皇商ハ前者ノ陰謀ノ為ニ廣州、厦門ノ両地盤ヲモ失フニ至ツタ。

カヽル機会ニ乗ジテ廣州ノ官商、厦門ノ貿易商人ノ努力ハ既得權確保ノ為ギルド創設運動ニ迄発展シ、海関監督並ニ提督ノ允許ヲ得ルニ至ツタノデアルガ、ソノ目的ハ外國貿易管理權ノ掌握ニ在リ、之ガ廣東公行（Co-Hong）即チ十三行ギルドノ先鞭ヲ成シタノデアル。而シテ十三行商ガ本質的ニ商人ニ官吏トシテノ性格ヲ維持シツヽ、且中間商人トシテ生キル途ヲ力見出シ得ナカツタトスレバ、ソノ地位ヲ強化シ、ソノ努力ヲ補強スル為ニ

ハマーチャント・ギルドノ機能強化以外ニソノ方法ガナカツタ。ソコデ康照五九年、公行ノ設

試シ、翌年ソノ機能ヲ一時停止シタガ、

總商制度　雍正六年ニハ總商制度（行商中財力、信用共ニ確実ナル者数人ヲ選ビ、連帶責任制ニ依リ、外國船及ビ外國人ノ検査、監督ノ責任ニ任ズル制度）ヲ創設シテ價格統制ト外國貿易獨占ヲヨリ強化シタ。詳言スレバ總商ト、当時ノ浙江總督李衛ノ奏請ニ依レバ「各商中ニ於テ身家最殷実者数人ヲ選ビ、立テテ總商トナス。凡ソ内地由リ往返之船ハ伊等ノ保責ヲ責令シ、方ニ給スルニ関牌験照ヲ以テスルコトヲ許ス。置貨験放。各船ノ入貨ハ商總ニ着キ不時稽查ス。如シ違禁ノ貨物ヲ夾帶シ、及ビ彼ニ至リテ通同作姦スル者アラバ、商總ヲシテ首報セシメ、出入口岸処所ニ於テ密拏ス。倘シ商總徇隱セバ一体連坐。事責成有リ、前弊ヲ杜ス可キニ庶幾シ」（國朝柔遠記巻四、雍正六年十一月立洋商總）ト言フ意味デアリ、廣東行商ニモカヽル總商制度ガ推及セラレタ次第デアル。要スルニ總商制度ハ官治統制ノ一ノ表現デアリ、ギルド強化トイフ一面的考察デハ理解シ得ナイモノガアル。即チ之ハ廣東十三行商ノ発展ノ反面ニ於テ清朝政府ガ行商ノ組織ヲ利用セントシタニ他ナラズ、ソコニハ商人ノ自主的意志ヨリ出発シタトコロノギルドガ次第ニ官治的色彩ヲ濃厚ニシテ行ク過程ガ明瞭ニ看取セラレル。換言スレバ總商制度ノ含意スルトコロハ、結局連帶保証責任制ニ在リ、ソレハ清朝保甲制ノ亜種タルノ性格ヲ持チ、清朝國家ノ漢民族統治ノ一方向デアル。

保商制度　カヽル總商制度ノ精神ヲ更ニ強化シ、推進セシメタモノガ保商（Security-merchant）制度デアル。之ハ雍正朝ヨリ行商ノ破産スル者ガ出ル様ニナリ、コレニ依リ租税收入ノ不足ヲ生ズル惧レガアツタノデ乾隆一〇年行商中ノ財力、信用共ニ確実ナル者ヲ選ンデ保商ニ立テ、コレヲシテ租税ヲ統一的ニ納付セシメルコトヽシタ。又同一五年ニハ從来通譯ヨリ納付シタ船鈔、及ビ規礼銀ヲ爾後保商ヲ通ジテナスコトヽナツタ。更ニ同一九年ニハ外國船ノ船鈔、貨税、行商ト通譯ノ手続費、從来ハ督撫ヲ経テ奉ツタ朝廷御用品等ノ一切ヲサヘ保商ニ、ニ人ノ手ヲ経ル如ク改メラレ、遂ニハ同二〇年ニハギルドニ属セス商人ノ外國貿易ヲ禁止スルニ至ツタ。コノ保商制度ハ清朝政府ガ租税收入ヲ確保スル為ノ策ニ外ナラズ、ソノ政策精神ハ全ク徹底シタ警察行政ニ在ツタ。カクテ元来保商制度ハ初メ一、二ノ行商ガ外國船ノ身元ノ保護ヲナシタ私的制度デアツタノガ、ソノ後上述ノ如キ公法的ナ正式制度トナツタノデアリ、乾隆二四年（一七五九年）

ニハ行商ニ〇余家、保商五家ヲ算ヘタガ、ソノ外ニハ家ノ「海南行」ガアツタ。ソシテソノ翌年ニハヨーロッパ貿易ヲ対象トスル「外洋行」ナル公行ノ設立ガ請願サレ、之ニ対シテ「本港行」ガ設ケラレ、シヤム朝貢貿易及ビ、納税ノコトヲ取扱ハシメ、「海南行」ハ改メテ「福潮行」トシテ潮州及福建人民ニ対スル貨税徴收ヲ司ラシメタ。カクテ三行分立期ニ入ツタガ、「本港行」ノ経済的基礎ガ薄弱デアリ、且朝貢貿易モ不振デアツタノデソノ倒閉相継ギ、乾隆六〇年（一七九五年）ニハ「外洋行」ガ「本港行」ノ事務ヲ兼理シタ。（嘉慶元年（一七九六年）一時「福潮行」ガ「本港行」ノ事務兼理ヲナシタガ、同五年旧ニ復シタ。）コヽニ至ツテ清朝外國貿易ハ一切廣東十三行商ノ掌握スル所トナリ、ソレト同時ニ保商制度ニ依ル責任制ノ強化ガ益々加ヘラレ、清朝國家ノ漢人商人利用ノ傾向ガ濃厚トナツタノデアル。

B 両淮塩商ニ対スル方針

塩商一般ノ性格ト構造　漢民族ガソノ主体ヲ成ス清朝商業資本ノ胚子ハ塩商デアリ、廣東十三行商トイヘドモソノ前身ハヨク塩商ダツタノデアル。而モ塩商ハ支那商業資本ノ歴史的（時代的）性格ヲ持ツト共ニ地理的（地方的）構造ヲ持チ、從ツテ両淮塩商ハ両淮塩場ニ根據ヲ置ク所ノ清朝塩商ノ代表的存在ダツタト言ヘル。

綱商制度　而シテ両淮塩商ニ於ケルギルド的独占制度ハ綱商制度ト呼バレルガ、ソノ字源ハ引商（宋朝ニ始マル）一種ノ交易證券ヲ引ト言ヒ、引法ハ発展シテ綱法ヲ生ンダ。）ニ継イデ起レル独占塩商制度ノ謂デアル。塩鈔→塩引（或ハ鈔引）ト言フ納税證券ニ依ツテ塩ノ専賣ヲ官許トスル両淮塩商ハ宋ニ発シ、元→明ヲ経テ清朝ニ及ブヤ、清朝モ明制ニ倣ツテ綱法ヲ用ヒタ故、綱商トシテノ両淮塩商ハギルド的繁栄ヲ得タノデアル。元来綱法ト ハ明朝ニ於テ塩務腐敗シ、塩法紊乱スルヤ、官ガ收買スルコトナク、塩商ハ灶户（製塩家）ト直接取引ヲナシ、引法ハ空文化シタ為、万暦四二年（一六一四年）綱法ナル新塩法ガ始マリ、綱冊ニ登記シタ塩商ヲ綱商ト言ヒ、登記後ハ永久ニ權利ヲ保有シ、ソコニ一種ノ特權制度（引商專賣制）ガ確立サレ、独占的ギルドトシテノ両淮塩商ノ発足ヲ見ルニ至ツタ。カヽル明制ヲ継承シタ清朝塩法ハ塩商中取路ノ引ニ定額ヲ設ケ認引多キ者ヲ総商ト言ヒ、認引少キ者ヲ散商ト称シタ。ソシテ散商ノ認引ハ総商名儀ニ依ツテ與ヘラレ、之ハ租税徴收ノ便宜ト保証責任制度ニ基クモノデアル。（総商並ニ散商ノ名称及ビソノ両者間ノ関係、ハ廣東十三行商ノソレト全ク符合シ、ソレラノ政治的役割乃至意義モ共通デアル。）

両准塩商ノ性格　カ、ル両准塩商ハ商人ニ地主タル性格ヲ持チ、廣東十三行商ト相並ンデ清朝ノ漢民族商人ノ典型的存在デアツタ。從ツテ清朝國家ノ之ニ対スル警察行政的態度モ廣東十三行商ニ対スルソレト軌ヲ一ニスルモノデ、雍正六年総商制度ニ類似シタ共同責任制度ヲ課セラレ、形式的ニハギルド強化ヲ承認サレ乍ラモ、実質的ニハ全ク清朝ノ租税收入ノ具ニ供セラレタ。即チ外面的ニハギルド的機能ヲ與ヘラレ乍ラ、内面的ニハ政治、経済的重荷ヲ課セラレタモノデアルコトハ、ソノ資本主義的段階ヘノ発展ヲ著シク制約セラレ封建的地主化ノ停滞過程ヲ辿ツタコトニ依ツテモ明白デアル。

C、買弁ニ対スル方針

清朝買弁ノ概要　清朝ニ於テハ買弁トハ行商ニ比シソノ機能上社会的地位ハ極メテ低イガ清朝ノ外國人監視政策ニ役立チ又ソレガ故ニ連帯保證責任制度ヲ設定セラレテ居ル所ノ、外國人ノ日常生活ノ為ノ官許使用人ニ外ナラナカツタ。コノ頃ノ買弁ハ行商ノ前資本主義的性格ニ反シ、「正直ハ最良ノ政策」ナル近代的商人道德（フランクリンリプロテスタント的経済倫理）ヲ体得実現シ始メタ存在デアリ、ソノ正直ト善行ノ故ヲ以テ社会的信用モ豊カデアツタ。

從ツテ又ソノ手腕ト信用ト傳統ト資力ヲ次第ニ廣東経済界ニ獲得スルコトニ依ツテ鴉片戦爭特ニアロー戦爭ヲ契機トシテ七三行商ニ代ハル貿易界ノ專横者タル地位ニ就クニ至ツタノデアル。ソシテソノ後次オニ産業投資ヘト関心ヲ転ジタ。カヽル漢人買弁ノ経済的機能ト社会的地位ノ向上ハ漸次清朝國家ヲシテ紛擾滋事ニ対スル恐怖ヲ抱カシメ、ソコニモ上述ノ如キ警察行政的政策ガ採ラレタノデアル。

第二節　政治面ニ於ケル漢民族操縦策

清朝政治形態ノ概要　清朝ノ政治形態ハ專制政治デアリ、而モソレハ第二代太宗ノ陰謀奸計ニ依ル即位ニ依ツテソノ出発ヲ見、ソノ一面ハ宗室、權臣ノ勢力ヲ削除スル專制制度デアツタト同時ニ他面漢民族ニ対スル專制政治デモアツタ。

後者ニ関シテ顕著ナル事実ヲ列擧スレバ左ノ如クデアル。

天聰初年（一六二七年）漢人俘虜ニ依ル賤役制度「包衣旗」ノ制定

順治二年（一六四五年）薙髪令ノ発布

順治十七年（一六六〇年）結社集会ノ禁令発布

清朝文化統制　之等ニ依ツテ清朝文化統制（漢民族文化ノ彈圧）ノ基礎工作ハ用意サレ、

康熙朝以後ハ屢々所謂「文字ノ獄」ガ繰リ返ヘサレ、反清思想ニ関聯スル漢人知識層ノ筆禍事件ニハ極刑ガ課セラレタ。ソレト同時ニ官撰図書出版ガ頻繁ニ行ハレ、反清思想ノ善導ガ努力サレ、又焚書モ積極的ニ行ハレタ。

清朝専制政治ノ諸様相

併シ勿論カカル専制政治モ近代初期ヨーロッパ各國ニ見ラレタ慾蔡的専制政治トハ全クソノ性格ヲ異ニシ、儒教的専制政治デアッタコトハ、結局ソノ基礎ヲナストコロノ経済構造ノ相違ニ基クモノデアル。而シテ清朝専制政治ニ対スル漢民族ノ反抗ハ幾多ノ内乱ヲ醸成シタガ、ソレラハ軍事的鎮定ニ依ッテ一應ハ片付イタ。尚又清朝ニ於ケル重臣層ノ權力爭覇モ乾隆五年四月ニ発セラレタ上諭ニ明示サレテ居ル如ク、満漢ノ対立ノ一現象デアリ、之ニ関スル清朝ノ対策ハ次ノ如キ変遷ヲ辿ッテ居ル。

清初↓順治帝ニ攝多爾衮ノ間ニ漢人優遇策

乾隆期以後――――――漢人排撃策

而シテ乾隆期以後ノ満人重臣ノ優勢化ト言フコトハ必ズシモ清朝國家ヲ安泰ニ導イタトハ言ヘズ、寧ロ差別待遇ニ不満ノ漢人重臣トノ対立ハ表面化シ、樹党專權ガ政治行政ヲ懈怠ニ陥レ、ソノ為ニ一方天災地変ヲ頻発セシメ、他方官吏ノ私曲ニ瀆職ヲ醸成セシメタ。

清末ノ傾向小説「官場現形記」ニ窺ハレルガ如キ腐敗型官吏ノ性格確立ノ時期ガ満人官吏ノ優勢化シタ乾隆期デアルト言フコトハコノ間ノ消息ヲ最モ良ク物語ッテ居ル。

戊戌政変

カヽル清朝ノ政治面ニ於ケル漢民族操縦策ノ行キ詰リハ遂ニ戊戌政変ヲ惹起セシメタ。戊戌政変トハ改革派タル光緒帝ニ康有為ノ変法自彊運動ニ端ヲ発シ、保守派タル西太后ニ栄祿ノ陰謀ニ依ッテ失敗ニ終レル所ノ清末ノ近代國家運動デアル。之ハソノ時既ニ下カラノ（漢民族ノ）改革志図タル洪秀全ニ李秀成ノ太平天國運動ガ失敗自体ノ内部分裂ト目標ノ早熟性トニ依ッテ失敗ニ帰シタ後、孫文ノ興中会ナル近代國民運動（漢民族解放運動）ガ抬頭スル迄ニハ未ダ間ノアル頃ノ事件デアル。光緒二四年四月二二日カラハ八月六日ニ亘ルコノ変法自彊運動ニ百日改革ハ上カラノ（満人為政者ニ依ル）改革デアリ、ソノ動機ハ日清戦爭ノ敗北ニ在ル。長期ニ亘ル漢人排撃策ガ清朝政府ヲ無能化セシメタコトニ気付イタ清朝國家ノ積極的分子ガ近代國家トシテ立チ直ルベク努メタコノ改革モ、西太后ノ反対ニ依リ結実スルコトナクシテ終ッタガ、ソノ主張スル所ハ左ノ如クデアル。

清朝ノ富國強兵化ニ経済社会発展化ハ何ヨリモ先ヅ從来ノ満人中心ノ軍事的、專制的封建國家制度ヲ改メテ、立憲君主政治ヲ基底トスル所ノ、政治制度ソノモノノ改革ガ必要デア

リ、ソレガ所謂変法デアリ、当時清朝政府ノ一部ニ唱導サレタ殖産興業政策ノ如キハ変革ニ過ギズ、生産力増強カラ富国強兵ニ経済社会発展ハ生ジナイト言フノガ康有為ノ方法論ノ論旨デアル。換言スレバ康有為ノ主張ハ経済工作（変事）ヨリ政治工作（変法）ヲ先ニナスベキデアルトシ、経済的優位ヲ占メル漢民族ノ進出ヲ制シツツ、政治的優位ヲ占メル満洲民族ノ手ニ依ツテ満人中心ノ支那近代国家ヲ建設セントスルニ在ツタ。

康有為ノ所説ニ対スル検討

カヽル康有為ノ主張ハ林則徐、曾国藩、左宗棠、李鴻章、張之洞等ノ清末新官僚ノ清朝近代化ノ方法論タル殖産興業ニ軍事生産力増強ニ反対スル点ニ於テ経済史学上論議ヲ要スル次第デアル。即チゾンベルトガ所謂「解放工作」（ニュタイン＝ハルデンベルヒ的改革）ヨリモ所謂「経済過程ノ安全工作」（制度ソノモノノ安全化ガ近代社会ノ発展ニ最モ必要デアルトスル改革）ヲヨリ高ク評價スルト言フコトト康有為ノ見解トハ偶然一致スルモノデアリ、従ツテゾンベルト説ノ讃否コソ康有為説ノ可否ヲ決定スルモノデアルト言ヘル。併シナガラ清末新官僚ノ方法論タル、殖産興業＝軍事生産力増強説ハ必ズシモゾンベルトノ所謂解放工作ト一致スルモノデハナク、之ト一致スルモノハ撃ロ太平天国運動ノ採用セル農業改革デアル点ニ特ニ注意ヲ要スル。約言スレバ軍ナルエ業建設ハ結局ニ於テ富国強兵＝生産力増強＝解放工作ニハナラナイノデアリ、又勿論ゾンベルト＝康有為的方法論モ富国強兵＝経済社会発展ノ出発点ヲ生産力増強＝解放工作ソノコトニ置カナイ意味デ誤謬デアツタト考ヘラレル。但太平天国運動ノ農業綱領「天朝田畝制度」ガナポレオンノ所謂 Propriété, Daydanne ヲ創出スル政策ト類似シ作ラ、前者ガ失敗シ、後者ガ成功シタト言フコトハ、ナポレオン時代ノフランスニ於テハ既ニソレガ事実上ニ存在シタカラデアリ、太平天国時代ノ支那ニ於テハ事実上未タソレガ存在セズ、過激ナル観念ノ産物ニ過ギナカツタ為デアルコトヲ一應知ツテ置ク必要ハアラウ。

第三節　清朝官僚ノ特殊性

清朝官僚ノ特殊性

清朝官僚ノ特殊性ガ資ラセル清朝漢民族統治政策ノ特殊性アル点ニ在ル。ソレ故ニヨーロッパノ学者ハ之ニ対シテ「命令者」 Mandarin （展怖ト権威ノ象徴）ナル語ヲ冠シテ居ル。彼等ハ常ニ土地ト商業ヲ投資対象トシタガ、コレハ当時ノ支那経済社会ノ発達ノ程度ヲ暗示スルモノデアリ、ソノ資産蓄積ノ源泉ハ役得タル収賄、勒索ニ在ル。正　別両俸ヲ以ツテシテモ薄少ナル清朝官吏ガ落地税、規禮銀、火耗等ノ私徴ヲ必然的ナラシメ、ソレガ人民（漢民族）ノ重荷トナツタコトハ言フマデモナイ。

清朝政府ノ强制捐輸（ソレモ官吏ニ流用サレタ）ト清朝官吏ノ勸索、收賄ニ苦シメラレタ代表的漢民族団体ハ広東十三行商並ニ両准塩商デアリ、ソレガ為ニ倒産スル者多ク、ソコニ前記ノ如キ総商ヨリ保商ノ連帶責任制度ヲ生ニダガ、官商スラモカヽル状態デアッタト言フコトハ特記ニ價スル。

勿論カヽル弊害多キ官僚制度ニ関シテハ清朝皇帝モ之ニ留意シ、時折慈惠政策ヲ採用シタガ、官吏中饒ノ事実ヲ知悉シツツ之ヲ嚴禁シナカッタコトハ興味津々タルモノガアル。カヽル官吏ノ私曲ハ常ニ國家的限界ヲ隨伴シ、ソレガ國庫收入ノ減少ヲ来スカ、官營企業ノ防害、破壞トナラヌ限リ放任サレタト言フ所ノ、我々ニトッテ驚クベキ事実モ、清朝官吏企業体コソ被支配層タル漢民族ノ経済的優秀性ニ対抗スル支配層ノ満人ノ採レル経済活動様式デアルト言フコトヲ知ルコトニ依ッテ漸ク納得スルコトガ出来ルノデアル。

科挙制度

コノ清朝官吏企業ハ民國成立後軍閥企業ニ止揚セラレタガ、ソノ有利ナル官界ヘノ進出コソ、満、漢人共ニ執着スル所デアリ、茲ニ一面ニ於テ官界ノ満人独占方針ガ必要デアルガ、他面ソノ露骨化ヲ避ケル為ニ苛酷ナル科挙制度ガ考ヘラレタ。茲ニ清朝ニ於ケル科挙制度トハ官僚組織ヲ漢人庶民（農工商階級）ニ開放セル試驗制度ヲ意味シ

満人（士族階級）ノ身分的（世襲的）地位ガ漸次崩壞シツツ在ル歴史的過程ノ産物デアル。即チ封建國家トシテノ清朝國家ハソノ政治組織ヲ封建制度ヨリ郡縣制度ニマデ変化セシメザルヲ得ザルモ、尚ソレヲ自ラハ欲シナカッタノデ、科挙制度ノ実施ニ当ッテハ苛酷ヲ極メ、乾隆五七年（一七九二年）九月ノ上諭ニ依レバ七〇才以上ノ鄕試生ガ全國ニ相当数分布シテ居タコトヲ物語ッテ居ル。而モ鄕試ノ後ニハ京師ニ於ケル会試ガアリ、ソレハ未ダ最終的官吏登庸試驗デハナカッタノデアル。カヽル事実ハ清朝ノ科挙制度ガ優秀漢人ヲ官界ニ採用シテ漢民族ノ不平ヲ和ゲルト同時ニ、ソノ才能ヲ逆用スルト言フコノ制度ノ理想ガ実現ニ得ナカッタコトヲ示シテソノ憂慮ガ依然トシテ絲故乃至金銭ニ依ッテ決セラレ、ソノ結果トシテ満人ノ貴族官僚ノ子弟カ漢人ノ富豪地主ノ子弟ノミガ考試ノ関門ヲ通過スルノ実情ニ在ッタノデアル。而シテソノ科挙制度モ詩文ヲ主眼トシテ、漢人ノ官吏志望者ハ政治、経済眼ヲ盲目化セシメラレタ。且漢人下級官吏ハ就職後モ捐輸ト減俸ト革職ニ依ッテ常ニ満人上級官吏ニ脅カサレ、出世ハ頗ル困難デアッタ。

清朝ニ於ケル官吏企業体ノ実相

カクテ清朝官界ニハ満漢対立ノ政治、経済的現象ノ一端ガ窺ハレ、ソコニ清朝官僚ノ腐敗ガ必然的ニ拡大サレタ。換言スレバ劣弱ナル満人経済ヲ

優勢ナル漢人経済カラ防衛スベク、ソノ一手段トシテノ官吏企業体ガ乗出セラレ、カヽル官吏企業体コソ清朝ノ漢民族統治策ノ一部ヲ形成シ、夫自体ノ目的ニ於ケル限界ヲ超過セル所ニソノ弊害ガ醸成サレタノデアル。ソレ故ニ亦官吏企業体ハ常ニ民間資本（漢民族資本）一般ノ成長ヲ嫌忌シ、曾ニシテヲ保護育成スルト言フコトヲナサナカツタ許リデナク、之ヲ磨滅セシメルト言フ方針ヲ執ツタ。ソノ極端ナ一例トシテハ順治初年ニ京師ノ富豪李三ヲ磨滅ニ藉口シテ誅殺シタ事件ガアル。カヽル民間資本（漢民族資本）弾圧ノ契機ヲナスモノハ苛税ヨリ勤索ト捐輸強制ニ他ナラヌ。従ツテ之ニ対抗スベク屢々民間資本家（漢民族資本家）ハ官吏トノ抱合ヲ企テタノデアル。

第四章　清朝ニ於ケル漢民族統治上ニ現ハレタル民生問題

清朝ニ於ケル民生問題ノ存在理由　清朝治下ノ漢民族ト雖モ、ソノ全部ガ経済的文化的ニ卓越セル能力ヲ有シテ居タモノデハナイ。従ツテソコニハ当然清朝ノ民生問題ガ充分存在シテ居タノデアル。ソシテコノ場合清朝産業各部門ハ夫々ノ特殊性ニ於テ民生問題ヲ包含シテ居タノデアル。以下各項ニ亘リ大要ヲ記述ニヨウ。

第一節　茶業ニ於ケル民生問題

支那茶業ノ概要　茶ハ塩ト共ニ支那交換経済ノ最古、最大ノ擔当者乃至促進者トシテ出現シ、唐代以後ノ歴代國家ハ茶ヲ軍事費補救ノ為ノ課税対象トシテ傳統的ニ採リ上ゲ明代ニハ官吏ノ俸給モ茶デ支給サレタ程デアル。清朝ノ茶モカヽル歴史的背景ヲ荷ヒツヽ庶民的全國的ナル生活必需品トシテ登場シタ。而モ清朝ニ於テハ茶ハ東印度会社ヲ通ジテ英國ヲ最大ノ乃至独占的ナル輸出先トシタ対外貿易品デアリ、且軍事國家乃至農本的封建國家トシテ清朝ニトツテ絶体ニ必要ナル馬匹ノ交易品トシテ、茶ノ意義モ重大デアツタ。（馬匹ノ供給者タル蒙外諸族ハ肉食生活者タル故ニ茶ヲ絶対ニ必要トシ、ソレ故ニ清朝政府ハ茶ヲ蒙外懐柔手段ニモ利用シタ。）又茶ハ茶税・官茶専売（私茶禁止）ニ依リ清朝財政ノ重要財源デアリ、ソノ確保ノ為ニハ茶戸ニ対シテ徭役免除ヲ断行シタリ、無主ノ茶園ヲ軍隊ニ経営セシメタリシタ。

清朝茶業マヌファクトウルノ発展セザリシ所以　カヽル清朝ノ茶ノ生産ハ米作農家ノ副業、兼営トシテ行ハレ、決シテ大規模ノ茶園ガ組織的栽培ヲ行フコトハナカツタ。ソレ故ニ茶

業ハ米作農家ノ家計補充ト言フ民生的意義ヲ持チ、清末ニ於テ発達セル茶業マヌファクトゥルノ如キモ精茶行程ニ限ラレタル茶荘ノ企業経営デアリ、原料茶、粗茶行程ノ経営ハアクマデ農家ノ副業トシテ存シタノデアル。勿論茶荘ノ茶業マヌファクトゥルガ商人ノ問屋型企業デアリ、近代機械工業ヘノ段階ニ迄発展シナカツタト言フコトハ一面ニ於テ清朝政府ノ民生問題ニ対スル顧慮ガブレーキトナツテ居タカラデアル。事実上茶荘ト特約生産農家ヲ結ビ付ケル木綿袋ハ既ニ近代機械工業化セル綿業ノ製品デアリ、茶業マヌファクトゥルハ当然近代機械工業化スル一歩手前迄来テ居タノデアル。カクテ清朝茶業ニ於ケル民生問題ハ清朝ノ保守的政治方針ヲ基礎付ケル役割ヲ務メタノデアル。尚清朝茶業ノ中心ハ長江一帯ニアリ、特ニ漢口ハソノ集散市場トシテ有名デアルガ、漢口茶荘ハ広東人ノ経営ニ係ハルモノ多ク、ソコニハ漢民族資本ノ南方資本ノ国内移動ノ北方動員ガ窺ハレ、清朝政府ハ一方ニ於テ茶荒ノ増加、官茶ノ増産ノ為、茶業ノ近代的発展ヲ望ミ乍ラ、地方ニ於テ民生問題ヲ顧慮シ、茶業ノ近代化ヲ抑制セネバナラズ、コヽニモ官吏企業体ノ清朝的統制経済ガレーゾン・デートルヲ見出シタノデアル。

第二節　綿業ニ於ケル民生問題

支那綿業ノ概要　支那綿ハ宋朝ノ頃福建、広東ノ両省ニ始メテ棉花ガ栽培セラレ、紡織ガ盛マレテ以来北漸シテ元朝ニハ江南地方ニ拡マリ清朝ニハ華北モ亦有力ナ綿業基地トナツテ居ル。併シ乍ラ華北ハ乾燥地帯デアル為湿気不足カラ紡織糸切断ノ恐レガアリ、之ヲ防グ為ニハ地下ニ於テ多大ノ経費ヲ要スル穴蔵生産ヲ行ツタガ、カカル経済的、技術的制約ノ為ニ綿業ハ華北小農民ノ民生的ノ家計補充的経営タルニ適シナカツタ。之ニ反シ中南支ハ綿花生産ト綿業ノ発達著シク、綿業マヌファクトゥルモ発展シ、ソノ民生的意義モ重大デアリ、ソコニハ印綿、日本綿ノ輸入、南京木綿ノアメリカ向輸出ト言フ現象サヘ見ラレタ。（南京木綿ガ世界綿業ノ王座ヲランカシアノ木綿ニ譲ツタノハ一八三〇年所謂イギリス産業革命ガ完成シテ以後ニ属スル。）因ミニ機械ガ世界ヲ征服スル以前ニ属スル清朝経済社会ハ、ソノ小農民ノ低賃銀ヲ利用スル所ノ労働力グンピンダニ依ツテ南京木綿ヲ世界綿業ノ王座ニ安定セシメ得タノデアル。

清朝綿業ノ特異性　サテ清朝ノ中南支ハソノ経済立地條件ト極メテ素朴ニ結ビ付キ、手作原綿ヲ起点トシテ小農民ノ家内労働ガ家計補充ノ為ノ民生的意義深キ副業トシテ営マレタカ、ル地盤ノ上ニ綿業マヌファクトゥルハ成長シタノデアル。

カカル清朝綿業ノ特異性ニ於テ清朝政府ハ一面軍事財源トシテ関税収入ノ増加ヲ計ルト同時ニ民生的効果ヲ擧ゲテ隆盛シ、ソノ調和ノ破綻ト共ニ漢民族統治ニ失敗シ滅亡シタノデアル。

第三節　絹業ニ於ケル民生問題

支那絹業ノ概要　支那絹ハ元華北ノ産物デアリ、而漢ノ三國時代マデハ山東、河南東部ガソノ名ヲ以ツテ著ハレ、四川省ガ之ニ次イダ。長江流域ニ絹生産ガ興リ始メタノハ南北朝以後デアル。然ルニ華北ノ絹業ハ明朝中葉以降衰落シ始メ、清朝ニハ蘇州、杭州ガ今日ノ如キ繁榮ヲ見ルニ至ツタ。カヽル華北絹業衰退ノ原因トシテハ北方ノ寒冷ニ基ク植桑ノ不利ヤ水質ノ不適ト言フ自然的條件ノ外ニ植棉ヨリ紡績家内労働ガ華北小農ノ労働力ヲ占有シタト言フ社会的條件ノ存在ガ擧ゲラレル。コノ没落過程ノ華北絹業ニ対シ清朝政府ガアクマデ保護、再建運動ヲシタノハ、実ニ漢民族ノ民生問題ガ伏在シテ居タカラデアリ、更ニソコニ窺ハレルモノハ清朝ノ小農民創出政策デアル。而シテ殊ニ養蠶ヲソノ方法トシテ選定シタノハ遊休女子労働ヲ動員スルモ本来ノ農耕生産ヲ害スルコトガナイカラデアル。

清朝絹業ノ特異性　次ニ中南支絹業発達ノ原因ヲ検スルニ自然的條件ノ有利性ノ外ニ左ノ

如キ社会的事情ガ潜在シタノデアル。清朝経済社会ニ於テハ絹織物ハ帯服乃至労働服デアリ、全國的ニ且全階級ニ亘ツテ愛用サレテ居ル。ソレハ原料、労働力ガ共ニ低廉デアリ、從ツテ販價ガ安イカラデアル。換言スレバ家族労働收益化ノ手段トシテノ民生的ニ家計補充的養蚕ニ製絲コソガ國内市場形成ノ要因デアリ、起点デアル。即チ蠶室ナキ農家ニテ粗笨ナル蚕具ヲ以ツテ極小規模ノ養蚕ヲナシ、簡單ナル足踏機械ヲ以ツテ生産手段トシ、繭ノ殺蛹、乾燥ノ法ヲ知ラズニ製絲スル為ニ不便ヲ感ジツツナスガ故ニ、支那絹ハ低廉ナノデアル。ソノ外ニ支那絹ハ國外市場商品トシテモ古クカラ知ラレ、ソコニモ開港地ヲ持ツ中南支ノ方ガ華北地方ヨリ絹業ニトツテ有利ダツタノデアル。要スルニ清朝絹業ハ清朝ニ於ケル民生問題ト経済問題トノ結合ノ姿トシテ把握サレネバナラヌ。

第四節　窯業ニ於ケル民生問題

支那窯業ノ概要　往年ノ支那陶磁ノ名声ハ西欧諸國ニモ知ラレ、ソノ生産技術サヘ輸出セラレタ程デアルガ、ソレモ康熙朝ヲ以ツテ頂点トシ、清末ニハ既ニ欧洲陶磁ノ方ガ優秀化シタコトハ、正ニ東洋ト西欧ノ経済発達段階交替ノ象徴デアル。清朝窯業ハソノ代表的存在トシテ景德鎮窯業マヌファクトゥルラ特ツタガ、ソレハ太平天國運動ノ為決定的打撃ヲ

後ケ衰勢ノ一途ヲ辿ツタ。

清朝窯業ノ特異性 カヽル清朝窯業ガ支那産業ニ珍ラシイ分業ニ專業制度ヲ計ツタコトハ注目ニ價ヒスルト同時ニ、ソコニ生ズル作業ノ單純化、平易化ガ農村失業者吸收ニ適シタノデアル。從ツテ清朝政府ハ輸出商品並ニ國内商品トシテノ陶磁ノ生産ヲ奬勵スルト同時ニソレニ依ツテ民生問題ノ解決ニ就イテモ役立テタノデアル。

第五節　清朝マヌファクトウル不振ノ原因

清朝マヌファクトウル一般ノ特殊性ト民生問題ノ関係 清朝マヌファクトウル一般ハ極メテ零細ナ規模作ラ徐徐ニ発展シテ来タノデアルガ、ソノ進度ノ余リニ遲々タルコトハ又驚クベキモノガアル。之ガ原因トシテ擧ゲラレルモノハ先ヅ苛酷ナル國内関税ノ存在デアル。ソコニハ清朝政府ガ軍事費補救ノ為マヌファクトウル保護政策ヲ徹底的ニ採ラナカツタト言フ事態ガ窺ハレル。第二ノ原因ハマヌファクトウルノ経營規模ガ家計補充的副業デアツタ点デアル。之ハ清朝政府ガ生産力ノ発展ヲ或ル程度犠牲ニシテマデモ民生問題ヲ顧慮シタ為デアル。第三ノ原因ハ國内市場ノ狹隘デアル。マヌファクトウル発展ノ為ニハ國内市場ハ外國市場ヨリモ関係ガ深イコトハ周知ノ通リデアルガ、過小農民ヲ主要構成分子トスル清朝國内市場ハ購買力ノ必然的限界ニ逢着シタ次第デ、茲ニ民生トシテ生産力発展ニ國力増加トノ調和ノ破綻ガ察セラレル。第四ノ原因ハ行商ノ産業支配デアル。清朝商人ノ巨大ナ資本力ガ零細組織ノ産業家ノ資本ヲ圧倒シテ居タ為、清朝マヌファクトウルノ発展形態ハクラフト・ギルドガ近代産業資本主義ヘノ展開ヲ示サズ、マーチャント・ギルドガ生産ヲ支配スル姿ヲ見セタ。之ハ清朝政府ガ民生的手段トシテクラフト・ギルドヲ過度ニ利用シタ為デアル。

清朝マヌファクトウルト民生問題ノ一般的関係 以上ノ諸要点カラノ当然ノ帰結トシテ、清朝マヌファクトウルノ特性タル狹隘ナル技術基礎ヲ破碎シテ機械ヲ作ルマヌファクトウルヲ自ラノ裡ニ形成スル所ノ厚生的産業革命ノ途ハ困難ヲ極メ、而モ他方基業絹業ノ如キハマヌファクトウルヲ止揚スルコトナシニ、外在的ニ近代化シ、更ニ殖産戰爭以後ハ國際的國内的諸事情ニ迫ラレテ官營軍事工場ノ設立、拡大ヲ必至的ナモノトサレタノデアルガ、上述ノ如ク中間段階トシテノマヌファクトウルカラ近代工場工業ヘノ成長ヲ妨ゲラレ、ソコニ清末産業機構ノ畸型的ナ脆弱性ガ露呈シテ居ル。而シテソノ裏面ニ於テ最モ力強クプレーキノ役割ヲ務メタモノガ、清朝ノ民生問題ニ漢民族ノ統治問題デアルコトハ特ニ注意ヲ要スル。

然ラバ何故ニ清朝政府ガ民生問題ヲカクマデ重要視シタカト言フ点デ民業ハ発展スル。

コノ場合我々ハ漢民族人口ノ激増ニ伴フ土地不足ノ現象ニ着目セネバナラヌ。

清朝ニ於テハ生活難、天災等ノ為ニ農民ノ土地ヲ捨テ逃散スルモノ多ク、ソレニ対シテハ政府ハ種々ノ慈恵政策ヲ採ッタ。之ハ逃散現象ガ地方的紛擾騒乱ヲ発生セシメル惧レガアッタ為デアリ、亦農本的封建国家トシテノ清朝ニ於テハ常ニ定数ノ農民ガ必要ダッタカラデアル。併シ元々土地不足ニ起因シタ逃散ガ多イノデアルカラ、如何ニ逃散農民ヲ故郷ニ回籍シタ所デ再ビ流民トナルコトハ必然的ナ事デアルカラ、清朝政府トシテハ一方ニ於テ賑恤ニ努メルト共ニ、他面ニ於テハ農村副業ノ奨励ニ依ッテ小農ノ創作ヲ計ッタ次第デアル。カクテ清朝ノ民生問題ガクローズ、アップサレルノデアル。

第六節 清末新興産業ニ於ケル民生問題

清末新興産業ノ展開

今ココニ清末新興産業トハ鴉片戦争ニ依ッテ刺激サレタ林則徐ヲ起点トセル造船、造兵工業ノ近代化及ビソレニ伴フ開鉱奨励並ニ太平天国運動ヲ契機トシテ急速ニ展開セル左宗棠、曾国藩、李鴻章ノ発意ニ依ル官営軍事工業ノ創設ニ於テ実現セルモノヲ謂フ。

民生問題ヨリ観タル清末新興産業ノ意味

之等ノ産業ハ清朝国家社会ノ近代化ヲ意味スルト共ニ、清朝マヌファクトゥルヲ補助的ニ動員スルガ故ニ、一見民生問題ヲ一切顧慮ニ入レザル所ノ、軍事国家トシテノ清朝ノ国防問題トシテ企図サレタガ如ク考ヘラレル。併シ実ハコヽニモ民生問題ハ含有セラレ、「民生国計ヲ期スルハ両ナガラ裨益アリ」（林則徐ノ主張ニ基ク民営ニ依ル開鉱奨励ニ関スル諭令ノ一句）トカ「古今ノ国勢ハ必ズ先ヅ富ミテ而ル後能ク強タリ。尤モ必ズ富ハ民生ニ在リテ而シテ国本乃チ益々固カル可シ」（李鴻章ノ上海洋布局創設ニ関スル批准奏請ノ一句）ト言フ様ニ、近代機械工業ノ発展ガ決シテ民生問題ト矛盾シナイノミカ、却ッテ調和一致スルコトヲ説イテ居ル。勿論コノ調和ノ方法モ左宗棠ト李鴻章ノ間ニハ見解ノ差異ガアリ、前者ハ貿易ノ本質ヲ比較生産費ニ依ル国際分業ト考ヘ、又近代機械産業ハ民利民営ニ重点ヲ置ク必要ガアルトシテ居ルニ反シ、後者ハ素朴ナ重金＝貨幣差額主義ノ立場カラ貿易ヲ重要視シ、近代機械産業ノ経営形態ヲ半官半民ニ依ルベシトスルモノデアッタ。唯コノ場合注目スベキコトハ清朝マヌファクトゥルニ於テ顧慮サレタ民生トハ下層漢民族ノソレデアリ、清末新興産業ニ於テ結ビ付ケラレタ民生トハ上層漢民族ノソレデアルコトデアル。

第五章　清朝政治制度及ビ政策上ニ窺ハレル漢民族文化ノ利用

第一節　官制上ノ利用

太祖建國以前ノ清朝社会ノ政治制度　太祖建國以前ノ清朝社会ハ綏愛ナル統制関係ニ在ル多数ノ部落集合体デアリ、太祖ノ地位ハ満洲民族中ノ最モ有力ナル部落集団ノ長ニ過ギズ全部落ニ対スルソノ支配權モ強固ナモノデハナカツタ。殊ニ太祖ガ有力化シタ頃デモ未ダ太祖ト同一權限ヲ持ツ他ノ三王ガアリ、ソノ國政ハ太祖ヲ含ム四王ノ交代執政制度及ビソノ組織スル国政会議ニ依ツテ運営サレタ。

清朝ニ於ケル明朝政治制度ノ踏襲事情　然ルニ一度太祖ノ漢民族ヲ征服スルヤ、漢人知識層並ニ官僚ノ俘虜ノ建言ヲ容レ漢民族ノ文化ヲ逆用シ、先ヅ総理大臣ヲ設ケテ彼ニ直属スル官吏ヲ各種ニ配置シ、他ノ王ノ行政事務ヲ管掌セシメ、同時ニ國政会議ニモ参画セシメルコトニ依ツテ旗ハ太祖ノ下ニ構成サレタ官僚組織ニ包含セシメラレ、國政会議ハ太祖ノ諮詢機関トナリ、遂ニ清朝ノ中央集權的官僚國家ノ基礎ヲ確立シタ。カクシテ清朝ハ明朝ノ政治制度ヲ踏襲シテ官制ヲ整備シ得タノデアルガ、ソノ運用ニ就イテハ漢人ヲシテ漢人ヲ治メシメ満人ハ傍カラ監督シツツ最後ノ判決ハ君主独裁ニ依ツテ満人タル皇帝ガ下シタノデアル。ソノ結果トシテ擧ゲラレルモノハ左ノ如クデアル。

1、満漢併用制ノ官僚制度ノ確立

2、合議制ノ政治制度ノ普遍

3、糾察機関ノ不用化

カヽル官制上ニ於ケル漢民族文化ノ利用ノ成功ニモ不拘、次ノ如キ点デハソノ成果ヲ擧ゲ得ナカツタ。

イ、國語問題　（満洲民族ガソノ低文化ト小数成員ヲ以テ高文化、多人口ノ漢民族ニ自國語ヲ強制使用セシメルコトノ困難カラ中央各官廳ニ翻譯官ヲ設ケタガ、康熙時代ニハ朝廷ノ保護奨励ニモ不拘、満人官吏モ漢語ヲ用ヒルニ至ツタ。）

ロ、下級官吏問題　（満漢併用制モ特定以上ノ官ニノミ適用サレ、下級官吏ハ漢人ノミトナリ、官紀紊乱ハソコニ発生シタ。）

ハ、科擧制度　（漢人智識層ニ対スル人心收攬策タル科擧制度モ競爭ノ激甚ナル

117666

結果、合格マデ有為淹劃タル青壮年ノ時期ヲ受験ノ為ニ空費シ、而モ試験科目ガ古典学、文学デアツタコト ハ愚民政策タル観ヲ呈シタ。且傍ラ売官ノ慣習ガ行ハレタノデ公平感ヲ失ツタ。）

第二節　村落統治上ノ利用

清朝ニ於ケル村落統治策ガ漸進性ヲ帯ビタル所以ト明朝ノソレヲ逆用セル事情　支那社会ヲ構成スルニ大階級ハ官僚ト農民デアルガ、清朝國家ノ官僚ニ対スル掌握ハ上述ノ通リデアリ、農民ニ対スル支配ハ租税徴收ノ円滑ト治安維持ノ確立ガソノ眼目デアル。勿論カカル村落統治ノ根本方針ニ関シテモ、ソノ重要性ニモ不拘版図ガ広大ニ過ギタ為、清朝國家トシテハ急進的改革ハ全然不可能デアリ、明朝ノソレヲ踏襲セザルヲ得ナカツタト言フヨリモソノコトニ依ツテ漢民族文化ヲ逆用シタト言フ方ガ適切デアル。蓋シ明朝当時慣習的ニ行ハレテ居タモノヲ清朝國家ノ法文ト化シタ場合ガ多カツタカラデアル。ソノ一例ヲ挙ゲレバ里甲制ヤ保甲制ノ如クデアル。

第三節　文化ニ思想ニ社会政策上ノ利用

清朝ニ於ケル文化ニ思想ニ社会政策ノ重要性　清朝ノ漢民族統治ノ重点ガ軍事力ニ依ル圧力的支配ニ在ツタコトハ上述ノ通リデアルガ、次シテ軍政一点張リデ三千万ノ満洲民族ガ三億ノ漢民族ヲ三百年ノ長期ニ亘ツテ制御シ切レルモノデハナイ。ソコニ当然要求サレルモノコソ文化ニ思想ノ政治的採用デアル。即チ武力的弾圧ト形影相伴フガ如キ文治的工作ガソコニ行ハレタノデアル。殊ニ國家ノ根幹ヲナス智識層並ニ官僚ニ対シテ最モ重要ナルモノハ、文化ニ思想ノ指導デアリ、ソノ普遍化過程ニ社会政策ガアル。清朝國家ガカカル問題ニ直面シテ、先ヅ第一ニ克服セネバナラナカツタノハ漢民族ノ華夷思想デアツタ。

華夷思想ノ克服　由来漢民族ニハ異民族王朝ヲ否定スル観念ガ強ク、清朝ニ対シテモ夷狄視シテ居タ。カヽル反清思想ノ根柢ヲナス華夷思想ニ関シテ清朝國家ノ指導シタ方法ハ、一方ニ於テ復明運動ニ対シテ、天命観ヲ主張シツツ、徐々ニ清朝正統思想ヲ確立シテ行ク方策ヲ採リ乍ラ、君主權ノ強化ト並行シテ忠義思想ヲ鼓吹シ、之ニ依ツテ君臣ノ義ヲ華夷別ノ漢人倫理ノ優位ニ立タシメルコトデアツタ。ソノ実施ハ左ノ如キ順序ヲ以ツテ行ハレタ。

イ、弁髪狭袖ノ強制（風俗ニ依ル支那統一）

ロ、満洲民族ノ中國化ニ諸外國ノ外夷視（夷狄観ノ轉化）

3、孝経ノ研究奬励（礼教ノ利用）

4、学藝ノ保護奬励（智識層ノ優遇）

以上ノ如キ文化＝思想ノ指導ハ大体雍正、乾隆両期ニ於テ完了シ、却ツテソノ行キ過ギヲ見ルニ至ツタ。ソコデ行キ過ギニ対スル是正トシテ満洲人的自覚ノ要求ガ満ハニ向ツテ要求サレタ程デアル。又之ガ社会政策トシテ普通サレタ姿ハ復明思想ノ緩和ノ為ノ天啓、崇禎時代ノ附加税ノ全廃ヤ諸帝ノ江南巡幸ヤ、忠義思想鼓吹ノ為ノ忠臣顕彰ヤ天災時ノ賑恤等デアル。

儒教、儒学ノ逆用　之等ノ文化＝思想＝社会政策上ニ於テ最モ清朝國家ニ役立ツタ漢民族文化ハ儒教、儒学デアリ、ソノ逆用ノ手段トシテハ始メ朱子学ヲ正学トシテ排満興漢ノ色彩ノ濃イ江浙学派（陽明学派）ノ風服ヲ試ミタガ、ソノ困難性ヲ知ルヤ寧ロソレヲ許容シ遍ク天下ノ碩学大儒ヲ招聘シテ顧問トシテ優遇シタ。併シソノ反面ニ於テ所謂「文字ノ獄」ヤ焚書ニ依ル弾圧ヲ行ツタノデ清学ノ風潮ハ経学モ史学モ共ニ「学問ノ為ノ学問」＝「政治ト切離シタ学問」＝考証学ニ進ミ、清朝政府トシテモコノ風潮ヲ利用シテ智識層カラ政治的関心ヲ奪フコトニ成功シタ。又郷約ニ依ツテ地方教育行政上ノ補助機関トシタコトモ

清朝ノ儒教逆用ノ一例デアル。

結　論

清朝ノ漢民族統治政策ノ二要点　之ヲ要スルニ清朝ノ漢民族統治政策ハ大別シテ武力弾圧ト文化工作ノ二ツガアリ、之等異質的ニ方策ノ紐帯トシテハ社会経済的地盤ガ必要デアツタノデアル。從ツテ清朝ノ漢民族統治問題ヲ分析スル場合、唯單ニ武力弾圧ノ諸現象ヤ文化工作ノ諸事実ヲ個別的ニ羅列スルノミデハ不充分デアリ、ソノ両者ヲ相関的ニ構成セシメル為ニハソコニ社会経済史学的考察ヲ加味セザルヲ得ナイノデアル。

「以漢治漢」　「以漢治漢」策ノ成功ト支配精神力ノ強大性　尚清朝ノ漢民族統治政策ハ他王朝ノソレト比較スルトキ、「以漢治漢」ノ傾向ニ於テ共通スル点多ク、又清朝ガ他王朝ヨリモ長期ニ亘ツテ隆盛ヲ極メタノハ支配精神力ノ強大＝支配者ノ傑出ニ依ルコト大デアツタコトヲ無視出来ナイ。

附錄一、參考關係文獻

「清朝國家ニ於ケル漢民族統治問題」ニ関スル纏ツタ文獻ハ殆ンド見当ラナイガ、左記ノモノガ概述的ナラ直接便利ナモノトイヘル。

東亜研究所版、異民族の支那統治概説

此書ノ内容ハ多人数ノ学者ガ専向毎ニ研究シタモノヲ綜合的ニ編輯シタモノ故、統一性ハ綜合性ニ乏シイ憾ミガアリ、（尤モ最近コノ缺陥ヲ訂正シテ「異民族ノ支那統治史」ナル新版ガ編輯セラレ、尚ソノ外ニ「清朝ノ支那統治政策」ナル細部研究ノ発表ガ豫告セラレタ。）且之丈デハ課題ノ精髄ニ觸レル点ガ少イノデ、ソレヲ補足シ、或ヒハ又是正スル意味デ間接的研究ガ必要デアルカラ、ソノ意味デ参考文献ヲ求メレバ、之ハ又汗牛充棟モ曾ナラヌモノガアル。ソノ内デ本文ニ比較的関係ノ多イモノヲ列擧スレバ左ノ如クデアル。

(一) 清朝政治史ニ関スル文献

イ、支那文献

蕭一山著、清代通志

清朝野史大観

清代軼聞

章梫著、康熙政要

陳懷著、中國近百年史要

左舜生編、中國近百年史資料

梁啓超著、中國四十年来大事記（傍題李鴻章）

皇朝聖典類纂

大清十朝聖訓

聖祖仁皇帝聖訓

高宗純皇帝聖訓

世宗憲皇帝聖訓

皇清開國方略（太祖上諭）

王之春著、國朝柔遠記

梁啓超著、戊戌政変記

梁廷枏著、澳門記略

姜宸英編、海防総論
資治通鑑
続資治通鑑
故宮博物院編、史料旬刊文献叢編
清朝文献通考
清朝続文献通考
古今図書集成
清朝通典
清代外交史料
汪榮寶著、清史講義
李肇著、國史補
向達著、中外交通小史
楊幼烱著、中國政治思想史
陶希聖著、中國政治思想史

呂振羽著、中國政治思想史
清朝經世文編、同続編
清國行政法
東華錄（清朝列代ノモノ）
夏燮著、中正記事
皇朝三通
清文鑑
御批歷代通鑑
大清一統誌
清碑類鈔
陸宣公奏議
彭剛直公奏稿
嚴從簡著、殊域周咨錄
吉林通志

山西通志
乾隆雲南通志
屈大均著、廣洲府志
李調元著、函海
同　右、南越筆記
吳震方著、嶺南雜記
嶺南即事雜撰
李文忠公全書
林文忠公政書
吳文節遺集
曾文正公全集
仇池石著、羊城古鈔
太平廣記
許地山著、達意集

尚清朝政治史ノ裏面ヲ巧ミニ穿ヘタ小說ニ「官場現形記」「老殘遊記」ガアル。

日、邦文々献

田中萃一郎著、東邦近世史
同　右　、史學論文集
稲葉岩吉著、近世支那史
同　右　滿洲發達史
矢野仁一著、近代支那論
同　右　、アヘン戰爭と香港
同　右　、近代支那の政治と文化
同　右　、近世支那外交史
同　右　、支那の南國に就いて
伍野賀袋美著、支那近代百年史
桑原隲藏著、浦壽庚考
内藤湖南著、清朝史通論

筌田文三著·支那外交通史

田原禎次郎著·清國西太后

稲葉君山著·清朝全史

今中次麿著·政治学説史

井出季和太著·支那民族の南方発展史

東京帝大東洋文化研究所紀要

八、欧米文献

H. B. Morse; The Chronicles of the East India Company Trading to China. 5 Vols (簡称 "The Chranicles")

H. B. Morse; The international relation of the Chinese Empire

" " Morse; China and Far East.

N. D. Narri; Europe and the East

J. Arnald; Some Bigger Issues in China problem.

C. T. Downing; Bits of Old China

E. Backhouse & J. O. P. Bland; Annals of the Court of Peking

S. Couling; The Encyclopaedia Sinica.

"Chinese Repositary" (簡称中華叢報錄), 1835 – 1846.

J. B. Eame; English in China

K. S. Latourette; The History of Early Relation Between the United States and China. 1784 – 1844.

R. M. Martin; China

P. Du Halde; History of China.

P. Auber; China

E. Pritchard; Anglo-Chinese Relations during the Seventeenth & Eighteenth Centuries

H. F. Gorst; China

J. Rosa; The Manchus

Werner; China of the Chinese

Yule; Marco Polo.
Brinkley; China.
J. G. de mendoza; The History of the great and mighty Kingdom of China.
Henri Cordier; Histories generale de la China
R. R. Morrison; View of China
E. H. Parker; China Past and Present
Mac-Gowan; History of China
W. H. Medhurst; China. Its State and Prospct
Montigny; Manuel du Negociant francaise en China
'The anglo-Chinese Kalender'

(二) 清朝經濟史ニ関スル文献

イ. 支那文献

陶希聖著、中國社会史的分析
熊得山著、中國社会史的分析
王孝通著、中國商業史
濂希逸著、中國財政史輯要
賈士毅著、民國財政史
中國近代經濟史研究集刊
塩鉄論
天工開物
武堉幹著、中國國際貿易史
國立中央研究院社会科学研究所刊第四号、六十五年来中國々際貿易統計
饒宿梅著、五國通商前廣州貿易概述分析觀
道光朝寿弁夷務始末
潘耒著、廣東新語序
屈大均著、廣東新語

陳達、南洋華僑と福建廣東社会（東亜経済調査局訳）
同右、汕頭附近一華僑区の実態調査（同　右）
温雄飛著、華僑通志
梁嘉彬著、廣東十三行考
清鹽法志
鹽政辭典
雲南鹽産紀要
嘉慶両淮鹽法志
照朝紀政直省鹽課表
古今鹽議錄要
雲南省財政説明書
廣東省財政説明書
張公泰著、粤游小志
阮元著、廣東通志

梁廷枏著、粤海関志
朱彧著、萍州可談
周廣著、廣東考古輯要
潘月樵著、潘啓傳略
位銓萃撰、万松山房六十寿唱和詩序
梁啓超著、中國之都市
陳金森著、天津之買弁制度
中國歴代經界紀要
賦役全書
各省別賦役册
李達著、中國産業革命概觀
楊銓著、五十年来中國之工業
穆藕初著、中國棉織業発達史
全漢昇著、中國行会制度史

太平天國叢書　天朝田賦制度史

ロ、邦文々献

東亜同文会、支那経済全書

白鳥博士還暦紀念東洋史編叢

市村博士古稀紀念東洋史編叢

東亜同文書院刊、支那研究

同　右　、続支那研究

同　右　上海研究

同　右　続上海研究

橘樸著、支那社会研究

清水盛光著、支那社会の研究

土屋計左右著、支那経済研究

末原慶助著、東洋政治経済思想淵源

田中忠夫著、支那経済史研究

同　右　、革命支那農村の実證的研究

加藤繁著、支那経済史

同右稿、康宋時代の商人組合「行」を論じて清代の会館に及ぶ（〃史学〃）

小竹文夫著、近代支那経済史研究

伊藤武雄著、現代支那社会研究

平瀬巳之吉著、近代支那経済史

森谷克己著、支那社会経済史

松井義夫著、清朝経費の研究

成田節男著、華僑史

田中克己著、清初の支那沿海

田中萃一郎稿、廣東外國貿易独占制度（〃慶應義塾学報〃）

同　右　稿、十三行（〃三田学界雑誌〃）

椹岸佶稿、廣東十三洋行（〃支那〃）

武藤長蔵稿、廣東十三行図説（〃支那経済研究〃）

松本忠雄稿、廣東の行商及夷館（〃支那〃）
清水盛光稿、旧支那に於けるギルドの努力（〃滿鉄調査月報〃）
根岸佶著、支那ギルドの研究
大谷孝太郎稿、上海に於ける同郷団体及び同業団体
上海総商会史
渡辺喜助稿、支那のギルドに就て（〃東亜事情研究〃）
上海出版協会調査部編、支那の同業組合と商習慣
志田不動麿稿、商人に於ける商人身分の諸規定と奢侈禁止令（〃社会経済史学〃）
安原美佐雄著、支那の工業と原料
山田繁平稿、清國茶業調査復命書
小此木藤四郎稿、清國織物視察報告
紫藤章稿、清國蠶糸業一班
松下憲三郎稿、支那製絲業調査復命書
本多岩次郎稿、清國蠶糸業調査復命書
峰村喜藏著、清國蠶糸業大観
山内英太郎稿、清國染織業視察復命書
日比野新七稿、清國陶器業視察報告書
北村弥一郎稿、清國窯業調査報告書
馬場鍬太郎著、支那経済地理、（旧書ニ屈スルガ清末ノ経済地理ヲ知ルニ便宜デアル）
同　右、支那経済の地理的背景
内田直作稿、買弁制度の研究（〃支那研究〃）
鈴木総一郎稿、買弁制度（〃東亜経済論叢〃）
藤田正典稿、十七・八世紀に於ける英支通商関係（〃東亜論叢〃）
百瀬弘稿、清代に於ける西班牙弗の流通（〃社会経済史学〃）
加藤繁稿、道光、咸豐年中支那にて鑄造せられたる
洋式銀貨に就いて（〃東方学報〃）

H.B. morse ; The Trade and Administration of China
W. milburn; Oriental Commerce
A.F. Sargent; Anglo-Chinese Commerce and Diplomacy
T.R. jermigan; China in law and commerce
T.R. jermigan; Chinese Business methods Policy
R.T. Dolittle ; Social life of the Chinese.
E.H. Parker; A note on Some Statics regarding china
E.H. Parker; China, Her History, Diplomacy and Commeerce
J.S. Burgess; The guilds of peking
macgowan; Chinese Guilds or Chambers of Commerce and Trades unions
Henri Cordier; Les marchands Hanists de Canton
W.C. Hunter; The Fan Kwa at Canton

C.T. Downing; The Fanqui in China.
L. Courtis; The Capital Question of China.
R.R. Morrison; A Chinese Commercial guide.
F.R. Puller; The old China Trade.
J.B. Taylor; Farm and Factory in China
J.L. Buck; Chinese Farm Economy
(邦訳"支那農業論")
R.H. Tawney; Agriculture and Industry in China
(邦訳"支那の農業と工業")
K.A. Wittfogel; Wirtschaft und gesellschaft Chinas
邦訳"支那の経済と社会")
Chinese Economic journal.
Chinese Economic monthly.
Chinese Economic Bulletin

H、B、モース著、支那ギルド論（邦訳）
C、F、リーマー著、支那経済讀本（邦訳）
W、F、コリンス著、支那に於ける鉱業（邦訳）
W、ワグナー著、中國農書（邦訳）
W、ウィルマニス著、支那農業経済論（邦訳）
L、マジャール著、支那向題概論（邦訳）
△　右　支那の農業経済（邦訳）
サファロフ著、支那社会史（邦訳）
E、カーン著、近代支那貨幣史（邦訳）
J、エドキンス著、支那通貨論（邦訳）
M、ウエバー著、社会経済史原論（邦訳）

附錄二、清朝学術文献ニ現レタル清朝國家ノ対漢民族思想指導策並ニ漢人ノ排清抗満文化運動

(一) 清学ノ学風（豫備概念ソノ一）

清学ハソノ初期ニ於テ晩明ニ十年間ノ学術思想ヲ遺産トシテ継承シテ居ル。即チ明末ノ遺臣ニ依ツテ清学ハ形成サレタノデアリ、詳言スレバ低文化ノ支配民族（満洲民族）ヨリモ高文化ノ被支配民族（漢民族）ニ依ツテ清学ハソノ実相ヲ見セテヰル。併シ乍ラソレ故ニ又為政者ノ学術思想ニ対スル制限頗ル多ク、集団講学ヲ禁ジ筆禍ノ獄ヲ興ス等ノ高圧手段ヲ以テ臨ンダ。從ツテ清朝ノ学者ガ國家社会ニ対シテ意見ヲ発表セント欲シテモ、過大ナル威力ノ下ニ自由発表ノ餘地ナク、ソコニ清学ノ学風ハ次第ニ変ジテ考證訓詁ノ研究、復古思想、経学中心主義トナツタ。茲ニ考證ノ学問ハ資料研究ノ学問デアリ、又復古ヲ以テ民族解放ノ手段トシ、擬古ヲ以テ民族革命ノ精神トスル学風ガ清学ノ特徴トナリ、之ハ理学中心ノ宋学、明学ノ学風トハ全然異ルモノデアル。

次ニ清学々風ノ形成、発展ヲ大別スレバ左ノ如クデアル。

揺籃期（順治、康熙、雍正ノ三朝）＝自十七世紀中期至十八世紀中期
全盛期（乾隆、嘉慶ノ二朝）＝自十八世紀中期至十九世紀上半期
轉換期（道光、咸豊、同治、光緒ノ四朝）＝自十九世紀上半期至二十世紀当初

(二) 清学ノ代表的人物（豫備概念ソノ二）

イ、搖籃期ノ代表的人物

搖籃期ノ代表的人物ハ顧炎武、閻若璩、胡渭デアル。之等ノ人々ハ「經學即理學」ノ主張ニ立チ晩明ノ王學（王守仁ノ學派）ノ読書ヲ蔑視シ、游談ニ過ス弊風ヲ改メ、ソノ空疎ヲ悪ミ、僞經ヲ明察シ、実證ヲ旨トシ、漢學、唐學ニ復帰セントシタ。ソノ為殊ニ典章制度ノ探求ハ著シク進展シタ。

其他ニハ歴史學ニ於ケル黄宗羲、天文學數學ニ於ケル王錫闡、梅文鼎ガ有名デアル。之等ノ人々モ常ニ清廷ノ高圧政策ノ為メ學説ヲ著シク規制サレタコトハ言フマデモナイ。

ロ、全盛期ノ代表的人物

全盛期ノ學派ハ搖籃期ヲ引継グモノトシテ左ノ如ク分レタ。

黄宗羲ノ系統―浙東派（浙東史學派）

顧炎武ノ系統
- 吳派（經學ヲ基礎トシタ史學、文學ニ及ブ）
- 皖派（文學ヲ基礎トシ　孔孟哲學ヲ探求ス）

此期ノ學者ハ朝野上下共ニ悉ク經學中心デアリ、所謂清學ノ黄金時代ヲ呈シタガ、搖籃期ノ學者ノ如ク經世実用ノ意図ヲ含マズ、學術ノ為ノ學術、考證ノ為ノ考證、經營ノ為ノ

經學ニ赴イタノハ、政治的彈圧ノ餘リニ劇シカツタ為デアル。

此期ノ學者ノ主ナル者ハ左ノ如クデアル。

浙東派―萬斯同、全祖望、邵晉涵、章學誠

吳派―惠周惕、惠士奇、惠棟、錢大昕、王鳴盛、余蕭客、江声、汪中

皖派―江水、戴震、金榜、孔廣森、凌廷堪、段玉裁、王念孫、王引之、

皖派ニシテ浙東史學家タルモノ―章炳麟

ハ、轉換期ノ代表的人物

全盛期ニ現レタル字句ニノミ拘泥セル弊風ハ遂ニ思想界ヲ消沈セシメ、ソコニ転換ガ要求サレタ。ソレニ應ジテ出タノガ莊存與ノ「春秋正辞」デアル。コノ學派（所謂宋學）ノ人人ハ劉逢禄、自珍、魏源、宋翔鳳、凌曙、戴望、皮錫瑞、康有為等デアリ、「春秋公羊傳」ノ研究ヲ中心ニ、次第ニ諸經ノ研究ニ及ンダ。

之ハ國運ノ衰頽ニ際シ、經學ヲ以テ挽回セントシタ思想運動デアリ、而モ國運ノ挽回ハ寧ロ西欧ノ天學ノ利用ニ若クハナシトノ主張ガ強マルニ連レテ、清末ノ學者ハ次第ニ經學ヲ忌避スル傾向ヲ辿ツタ。

(三) 清朝学術文献解説

以上ノ豫備概念ヲ以テ清朝学術文献ヲ解説シテ見ヨウ。

イ、胡渭王著「髮史考」

清朝ノ漢民族統治策ノ一タル断髮ノ令ニ関スル記述デアリ、ソノ漢民族ノ民族性芟除策ニ対スル反抗ノ実情ヲ伝ヘテヰル。

ロ、顧亭林著「日和録」

亭林ト八顧炎武ノ別称デアル。黄宗羲ノ「明夷待訪録」ヲ讀ンデ感激シテ之ヲ著シタモノデアリ、コノ三十二巻ノ隨筆雜考集ノ中ニハ反清復明思想ガ含マレテ居ル。

ハ、王船山著「黄書」

王夫之ノ別称ヲ船山ト言ヒ、コノ書ハ黄帝ヲ漢民族ノ祖トスル断定ヲ下シ、「禪ルベシ、継ゲベシ、而シテ異民族ヲシテ之ニ間セシムベカラズ」ト述ベ暗ニ滿洲民族ノ支配ヲ否定シテ居ル。

ニ、閻古古著「帝統紊章」

漢民族思想ヲ鼓吹セル言辞多ク、反清文化運動ノ書ト言ヘル。

以上ノ著書ハ明室滅ビ後山林ニ隱居シテ直接間接ニ漢民族大衆ニ漢民族思想ヲ宣傳シタ人人ノ遺作デアリ、支那近代民族革命ニ思想的影響ヲ與ヘタモノデアルガ、ソレ丈ニ清朝ノ禁書トナツタ。

ホ、朱國楨著「明史」

朱氏ハ明朝ノ宰相デアツタ人デアリ、「明史」ハ広ク読マレタガ、ソノ一部（列朝諸臣傳）ハ上梓サレナカツタ。ソレハ清人（滿人）ヲ指彈セル語句ガ多ク含マレテ居タカラデアル。然ルニ後年莊廷鑨ガ之ヲ補筆シテ匿名デ刊行シタ為、筆禍事件ヲ惹起シタ。

ヘ、戴名世著「南山集」

方孝標著「滇黔紀聞」

孝標ハ呉三桂ノ事実ニ詳シク、名世モ亦明代史ニ留意シテ居タノデ明末ノ遺老ヲ訪ヒ、故ヲ攻究シ、ソノ野史ヲ記シタ。ソレラヲ纒メタ両書ガ後ニ彈劾ヲ受ケ序ヲ書イタモノ、著者ノ一族ニ至ル数百人ガ處罰セラレタ。

ト、呂晚林著「論華夷之別」

滿人ヲ夷狄視シ、攘夷ヲ説イタコノ書ハ亦筆禍之獄ヲ惹起シタ。

チ、雍正朝官本「大義覺迷錄」

屢次ノ文字之獄（筆禍事件）ニ対シ、世宗自ラ事件ノ始末ヲ詳記シタモノデ、思想ヲ以テ思想ヲ征服セントシタソノ方針ガ窺ハレル。併シソノ理論ハ詭弁ヲ多ク含ミ、漢人ヲ首肯セシムルコトハ出来ナカツタ。從ツテコノ書ハ乾隆朝ニ於テ、禁書トナツタ。

リ、陸生柟著「通鑑論」

之ハ封建ノ利ヲ論ジタモノデ、復古ニ托シテ排滿ヲ主張スルモノト解サレ、著者ハ誅殺サレタ。

ヌ、乾隆朝ノ「禁書総目」「抽毀書目」

高宗ガ発布シタ禁書令ニ依ツテ焼棄セラレタ史学、文学ノ諸書ノ目録デアリ、漢民族思想彈圧ノ暴擧ノ内容ヲ物語ツテ居ル。而モコノ禁書ト同時ニ「四庫全書」ノ編纂ガ行ハレタコトハ両書ガ漢民族思想指導策ノ表裏関係ヲ持ツテ居ルモノト見ナケレバナラヌ。

ル、黄宗羲著「明儒学案」「宋元学案」

両書ハ支那学術史トシテ纒ツタモノノ最初ノ上梓デアルガ、之ニ依ツテ間接的ニ排滿興漢ノ文化運動ヲナシタト思ハレル点ガ多イ。

オ、黄宗羲著「明夷待訪錄」

史学的見地カラ具体的ニ民本主義ヲ説イタ政治論デアリ、殊ニ君主ノ權利義務ハ民利ト不可分ノモノデアリ、又君臣ノ関係ハ絶対ノモノデハナイト説キ、清末ノ反満革命ニ思想的根據ヲ提供シタ。併シ乍ラソノ説ハ王道國家ノ重民思想ヲ語ルモノデ、ルソオ流ノ民權論ト異ルモノデアツタ。

ワ、王船山著「讀通鑑論」「宋論」

之等ノ史論ハ、君主專制ヲ非トシ、自由平等ヲ説キ、清末ノ反満革命ノ思想的温床ヲ成シタ。併シ乍ラコノ説モ王權是認ノ前提下ニ主張スル所ノ支那的自由主義論デアツタ。

カ、顧炎武著「亭林文集」「天下郡國利病書」「肇域志」

此等ノ書ハ「日知錄」ト同様ニ民生論、經有制度論ヲ多ク含ミ、君臣分權説ヲ前提トシ、法治主義ヲ否定シ、人治（德治）思想ヲ強調シテ居ル。

ヨ、順治帝―「御註孝經」

康熙帝―「孝經衍義」

雍正帝―「孝經集注」

清朝列代ノ漢民族ニ対スル文化政策ノ一端トシテ、華夷思想ノ超克ガ採リ上ゲラレ、ソノ具体策トシテ、満洲ノ中国化ヲ計ツタガ、ソレノ礼教部門ニ於ケル現レタルヤ実ニ「孝」ノ観念ノ扶植デアツタ。之ガ為ニ天子自ラ率先シテ孝経ノ研究ヲ行ハレ、此等ノ書ヲ刊ミタ。

タ、乾隆帝勅纂「御批通鑑輯覧」「勝朝殉節諸臣録」

漢民族ニ対スル思想指導策ノ一ノ現レトシテ君臣ノ大義ヲ鼓吹シ、同時ニ清朝正統思想ヲ裏付ケントシタモノデアル。

レ、「開国方略」「満洲源流考」「盛京通志」

清朝正統思想ヲ鼓吹セントシタ宣伝文書デアル。

附録三、清朝法典小解

一、欽定大清会典（会典ト八会要典章ノ義、康熙、雍正、乾隆、嘉慶、光緒ノ五会典ガアリ、時勢ノ推移ニ伴ヒ、行政ノ準則ヲ改定増補スル為ソレガ生ジタ。）

二、欽定大清会典事例（乾隆会典編纂以後八逐年ノ事例ヲ以テ別ニ一書トナシ、之ヲ会典則例ト称シタ。尚嘉慶、光緒両会典デ八最初ヨリ事例ヲ別ニ蒐集シテ、会典事例トシタ。又両会典デ八事例ノ外ニ会典図モ別冊トシテ編纂サレタ。）

三、イ、欽定戸部則例　ロ、吏部稽勲司則例　ハ、中枢政考（兵部則例ニ類スルモノ）

ニ、内務府則例　ホ、吏部処分則例　ヘ、理藩院則例　ト、兵部處分則例

（之等八会典ノ運用上特ニ生ジタ新例、疑義、補足ヲ集メテ編纂シタ行政法典デ、各官庁毎ニ作ラレタ。）

四、イ、物料價値則例

ロ、八旗則例

ハ、軍器則例等

（之等八三ノ諸則例ノ如ク一般ノ事務ニ就イテノモノト異リ、各部事務中特定ナルモノニ設ケラレタモノデアル。）

五、イ、賦役全書

ロ、演運全書

（之等ハ四ノ特別則例ニ準ズルモノデアル。）

六、大清律例統纂集成（律例ハ刑法典デアリ、律ハ不変ノ根本的法律、例ハ変化スル細目的條文デアル。清律ノ刪定ハ順治三年ノ「大清律集解附例」ヲ以テ初マリ、ソノ刊刻ハ康熙十八年ノ「見行則例」ヲ以テ嚆矢トスル。「大清律例統纂集成」ハ沈之奇ガ律例ニ註釈ヲ加ヘテ刊行シタモノデアリ、私撰法典中最モ有名デアル。）

七、要　約

元来清朝ノ成立ハ満洲民族ノ強力ナル軍事力ニ依ツテナサレタモノデアツタガ、反面明朝官僚政治ノ腐敗ト言フ内部崩壊過程ヲ利用シ、農民ノ叛乱ニ手ヲ焼イテ居タ支那封建諸侯ヲ援助スルコトニ依ツテ成功シタモノデアル。從ツテ清朝ハ支那官僚制度ヲ否定スル所カ、却ツテ之ヲ再強化シ、封建的支配ヲ以テ漢民族統治ノ実体トナシタ。カクテ清朝政治ハ明朝政治ノ同質的連続デアリ、ソコニ清朝法典ガ明朝法典ノ満文ヘノ飜訳ニソノ起点ヲ置キ、上記ノ如キ諸法典ヲ逐次ニ規定シ、最後ニ嘉慶二十二年ニ至ツテ欽定理藩院則例ガ完成サレ、ココニ於テ清朝ノ漢民族統治ガ如何ニナサレタカ事明細ニ知リ得ル次第デアル。又明太祖洪武帝ノ聖訓ガ順治三年ニ満訳サレタコトモ興味深イ事実デアル。要スルニ清朝ハ異民族統治策ガ明朝ノソレノ踏襲デアリ乍ラ、前者ガ後者ヨリモ成功セル所以ハ、世界情勢ガ清朝ニ外患ヲ與ヘルコト少ナカツタ為デアリ、一朝外敵ノ侵入ヲ受ケルヤ清朝ハ忽チ衰亡シタノデアル。

附録四、清朝典籍小解

清朝ノ列祖ガ漢民族ニ対スル文化政策上多クノ典籍ヲ編纂サセタコトハ注目スベキ事実デアル。

一、欽定四庫全書

（清室勅編事業ノ最大ノモノデアリ、宮中、府中、官吏、私人ヲ動員シ、刊本写本ヲ広ク蒐メ、一定ノ標準デ撰擇サセタモノデアル。特ニ明室ノ「永樂大典」ヲ校正收録シ、底本ヲ翰林院ニ藏メ、之ニ基イテ写本ノ巨大ナル叢書ヲ作リ、宮中ノ文淵閣ニ收メタ。）

二、古今図書集成

（乾隆帝ノ勅令ニ依リ、一萬卷ノ本ガ集成サレ、銅活字デ印行サレタ所ノ類書即チ事彙デアル。）

四、康熙字典（辞典）
五、清朝三通、続三通、皇朝三通（共ニ政書）
六、渕鑑類函、駢字類編、佩文韻府（共ニ類書）
七、全唐文、全唐詩、佩文齋詠物詩選（共ニ詩文集）

右ノ外私人編刊ノ書籍モ多ク、殊ニ考證学ハ盛ニダツタ為コノ傾向ハ出版事業ノ発展、活字印刷ノ普及ト相俟ツテ盛大デアツタ。

一、藏書家ニ依ル叢書ノ刊刻

曹溶、学海類編
鮑廷博、知不足齋叢書
張海鵬、学津討原、墨海金壺
但崇曜、粤雅堂叢書
納蘭性德、通志堂経解（新刊経解）
阮元、皇清経解（学海堂経解）
王先謙、同続

二、輯佚書
玉函山房輯佚書
漢学堂叢書
三、地方文献ノ合刻本
畿輔、金華
武林掌故叢編
四、古文編纂
嚴可均、全上古三代秦漢三國六朝文

附録五　清朝秘密結社ニ関スル文献

支那ノ秘密結社ハ宗教的、政治的、土匪的、労働組合的諸傾向ノモノガアリ、ソノ活動方法モ朝廷ヘノ反抗、外人排斥等多岐ニ亘リ、ソノ思想動向モ社会主義乃至共産主義ノ色彩ヲ持ツモノヤ、民族主義的ナモノガアル。ソノ活動ハ宋、元、以来活潑デアルガ、殊ニ清朝ノソレハ最モ顕著ノ大乱ノ如キハ最モ有名デアル。清朝ノ滅亡、漢民族ノ興隆ニ清朝秘密結社ガ直接、間接ニ関係ガ深イ故、ソレニ関スル、

常識ヲ持ツテ置ク必要ガアル。

馬場春吉、支那の秘密結社

商務印書館刊　中國秘密結社史

蕭一山、近代秘密結社史料

B、ファーブル、支那の秘密結社

（十九、十、十二、一）

（竹中久七稿）